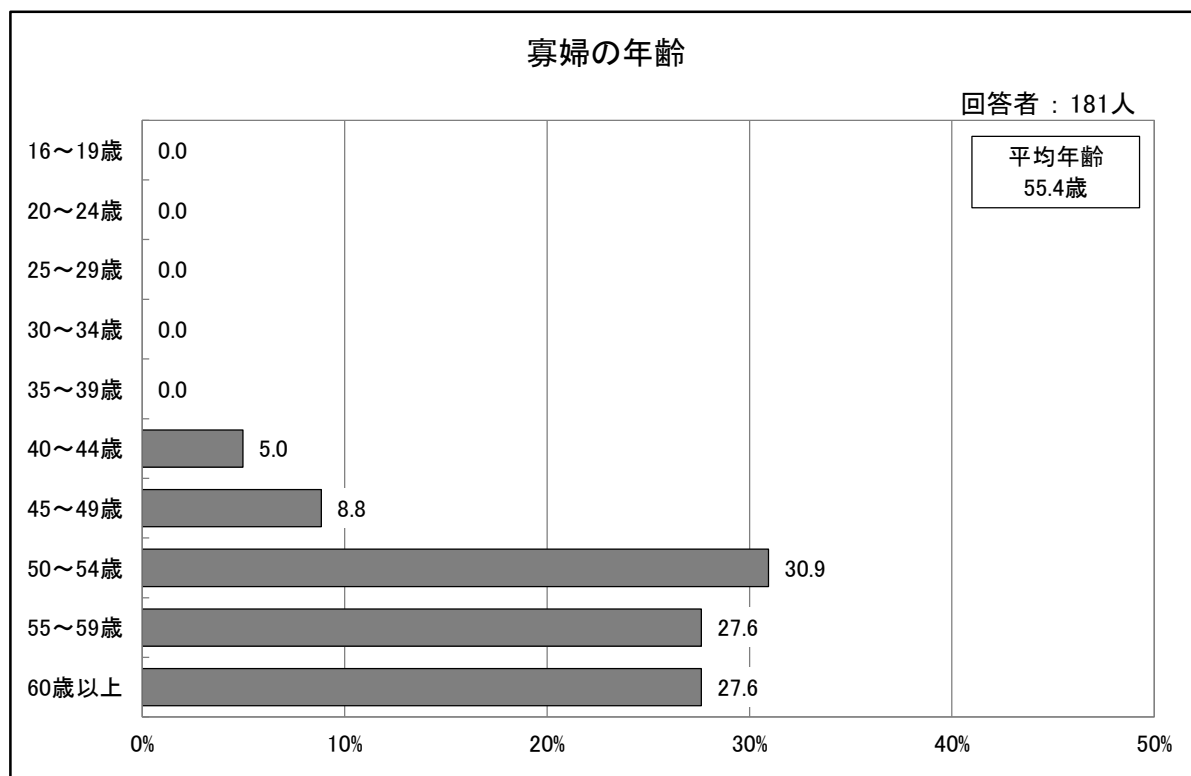


1 寡婦世帯の状況について

(1) 寡婦の年齢

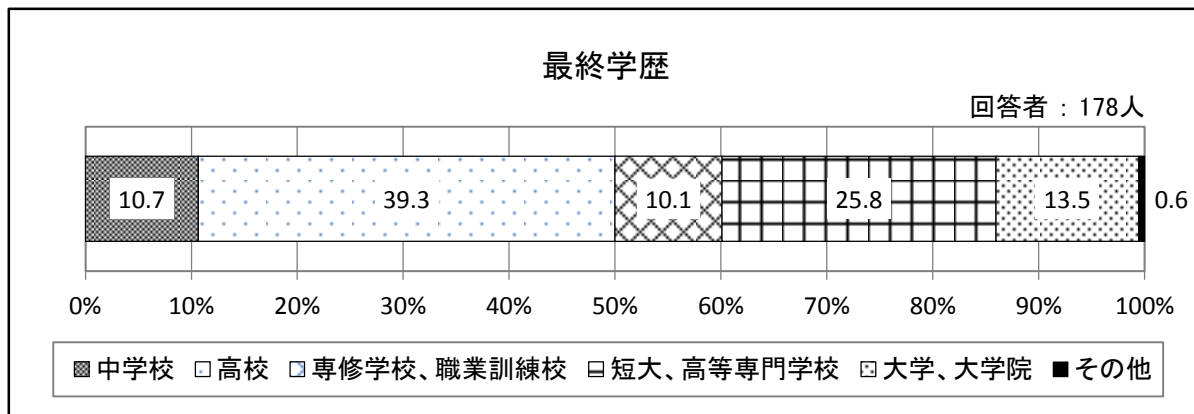


寡婦の年齢は50代が約6割、60歳以上が約3割

寡婦世帯の年齢は「50～54歳」が30.9%と最も多く、次いで「55～59歳」、「60歳以上」がいずれも27.6%となっており、平均年齢は55.4歳となっている。

10歳きざみに寡婦の年齢をみると、50代が58.6%と最も多く、次いで60歳以上が27.6%、40代が13.8%の順となっており、50歳以上が全体の8割以上（86.2%）を占めている。

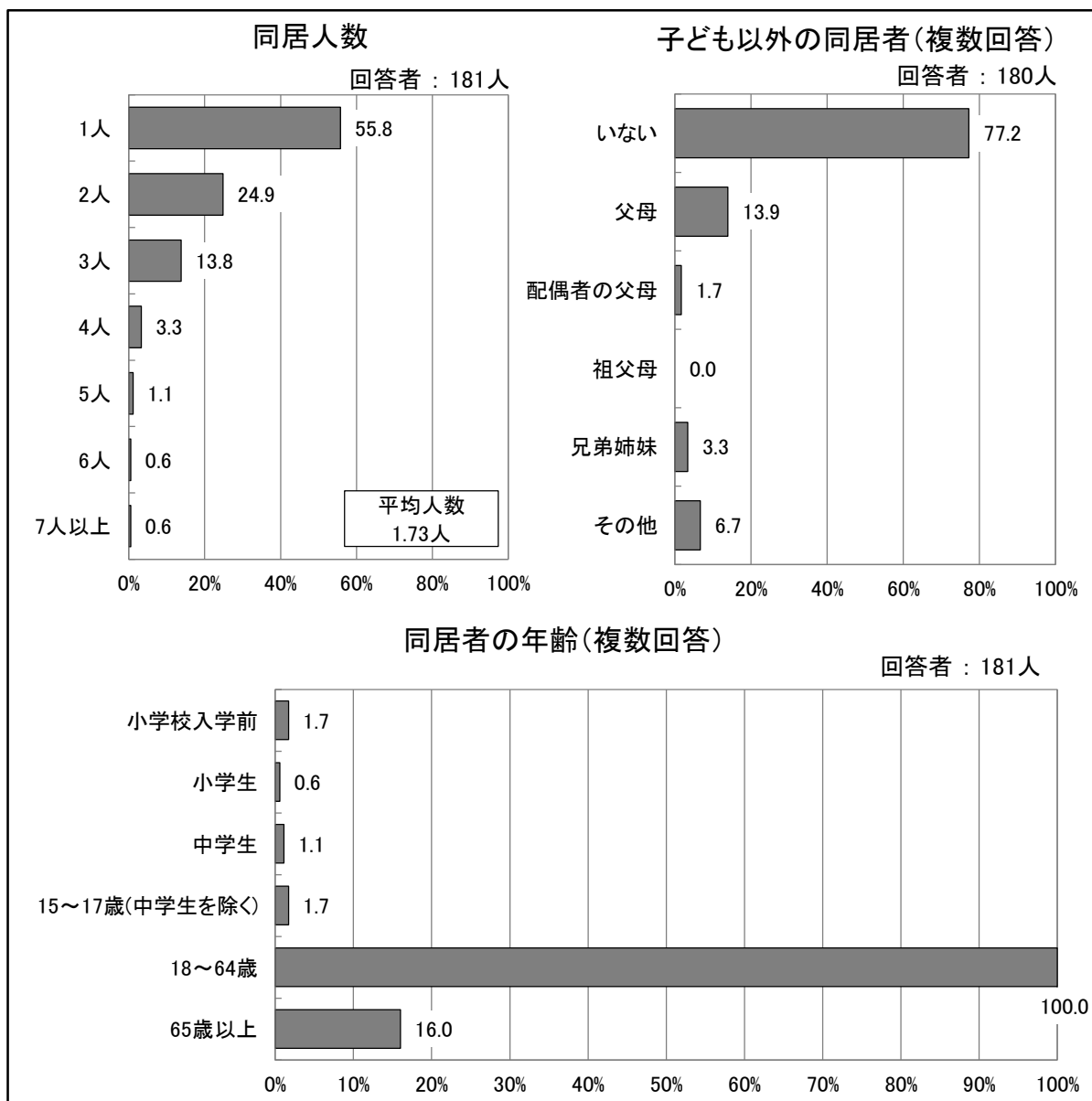
(2) 最終学歴



最終学歴は、高校卒業が約4割

寡婦の最終学歴は「高校」が39.3%と最も多く、次いで「短大学、高等専門学校」(25.8%)、「大学、大学院」(13.5%)、「中学校」(10.7%)の順となっている。

(3) 同居の家族



※「子ども以外の同居者」「同居者の年齢」は、人数に関わりなく、該当があると回答された項目の割合を示している
 (例:「父母」であれば、回答者 180 人×13.9%≒25 人(世帯)に該当者がいることが分かる)

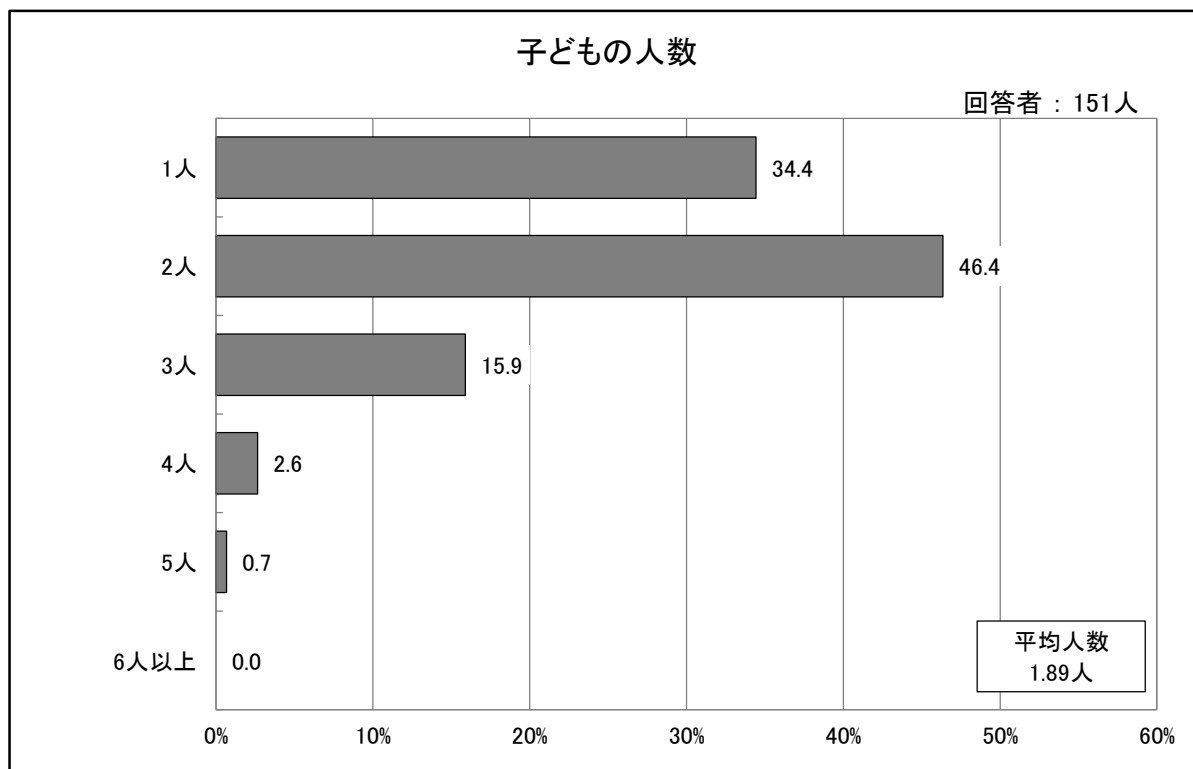
同居人数は1人が約6割、平均同居人数は 1.73 人

本人を含む同居人数は「1人」が 55.8%と最も多く、次いで、「2人」(24.9%)、「3人」(13.8%)の順となっており、平均同居人数は 1.73 人となっている。

子ども以外の同居者については、「いない」が 77.2%と最も多く、次いで「父母」が 13.9%となっている。

同居者の年齢は、「18~64歳」が 100.0%と最も多く、次いで「65歳以上」(16.0%)となっている。

(4) 子どもの人数

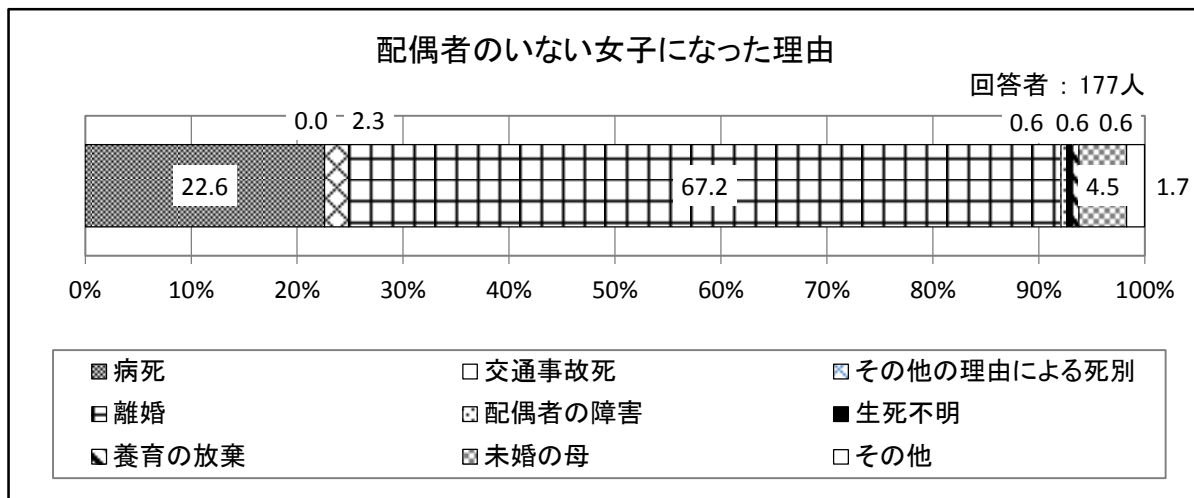


子どもの人数は2人が約5割、平均人数は1.89人

子どもの人数は「2人」が46.4%と最も多く、次いで「1人」(34.4%)、「3人」(15.9%)の順となっており、子どもの平均人数は1.89人となっている。

2 配偶者のいない女子になった当時の状況

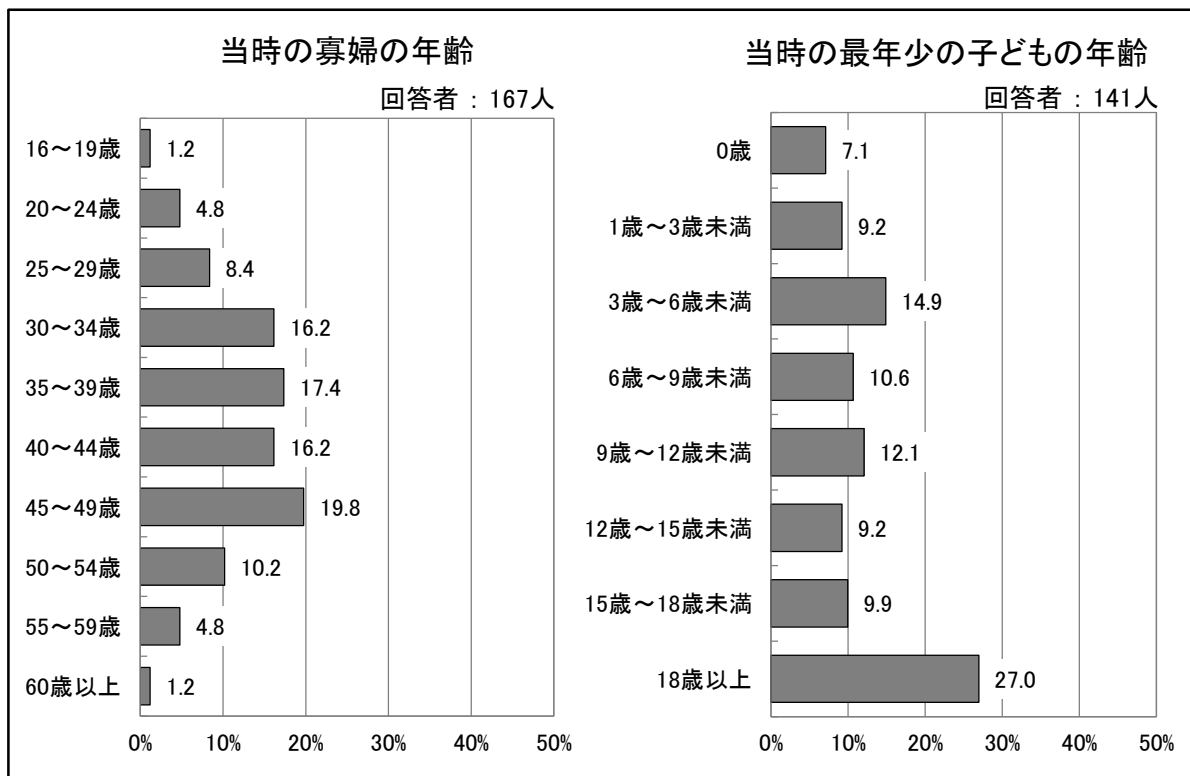
(1) 配偶者のいない女子になった理由



配偶者のいない女子になった理由は離婚が約7割

配偶者のいない女子になった理由については、「離婚（内縁関係の解消を含む）」が67.2%と最も多く、次いで「病死」が22.6%となっている。

(2) 配偶者のいない女子になった当時の寡婦と最年少の子どもの年齢



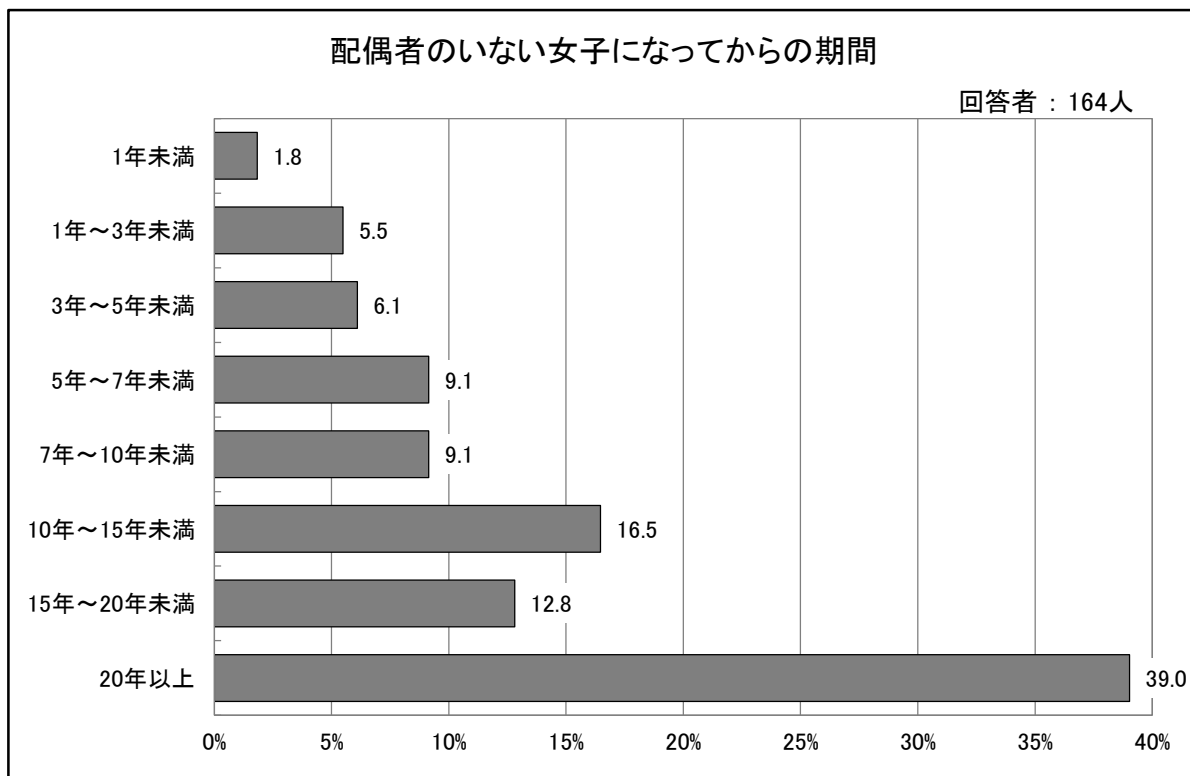
**配偶者のいない女子になった当時の寡婦の年齢は40代が約4割
 当時最年少の子どもの年齢は、6歳未満が約3割、12歳未満では約5割**

配偶者のいない女子になった当時の寡婦の年齢は、「45～49歳」が19.8%と最も多く、次いで「35～39歳」(17.4%)、「30～34歳」(16.2%)、「40～44歳」(16.2%)、の順となっている。

10歳きざみにみると、40代が35.9%と最も多く、次いで30代(33.5%)、50代(15.0%)の順となっている。

また、その当時一番年齢の低かった子どもの年齢をみると「18歳以上」が27.0%と最も多く、次いで、「3歳～6歳未満」(14.9%)、「9歳～12歳未満」(12.1%)、「6歳～9歳未満」(10.6%)、「15歳～18歳未満」(9.9%)の順となっている。

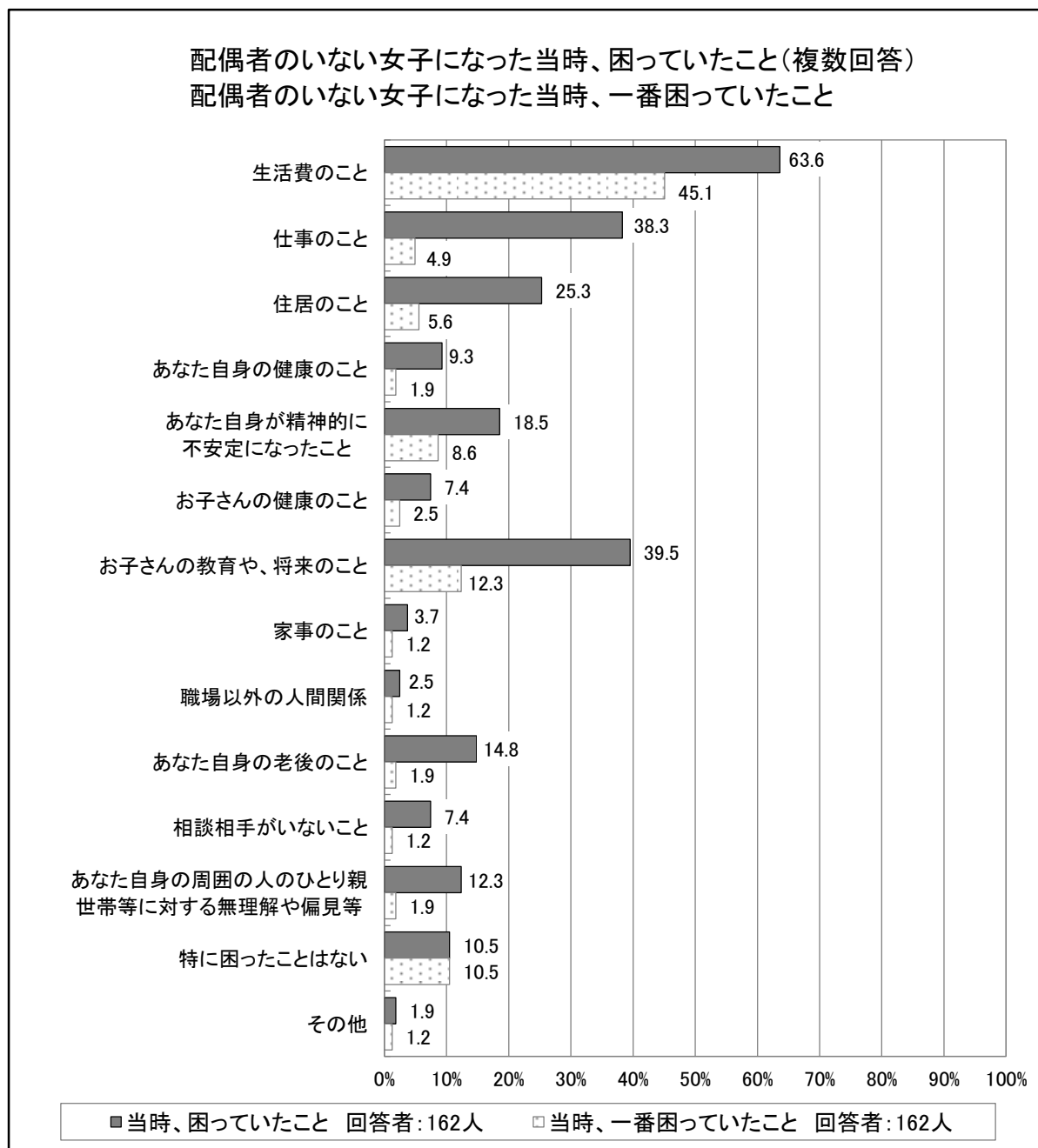
(3) 配偶者のいない女子になってからの期間

**配偶者のいない女子になってからの期間は10年以上が約7割**

配偶者のいない女子になってからの期間は、「20年以上」が39.0%と最も多く、次いで「10年～15年未満」(16.5%)、「15年～20年未満」(12.8%)、「5年～7年未満」(9.1%)、「7年～10年未満」(9.1%)の順となっており、10年未満では31.7%、10年以上では68.3%となっている。

(4) 配偶者のいない女子の困りごと・相談先

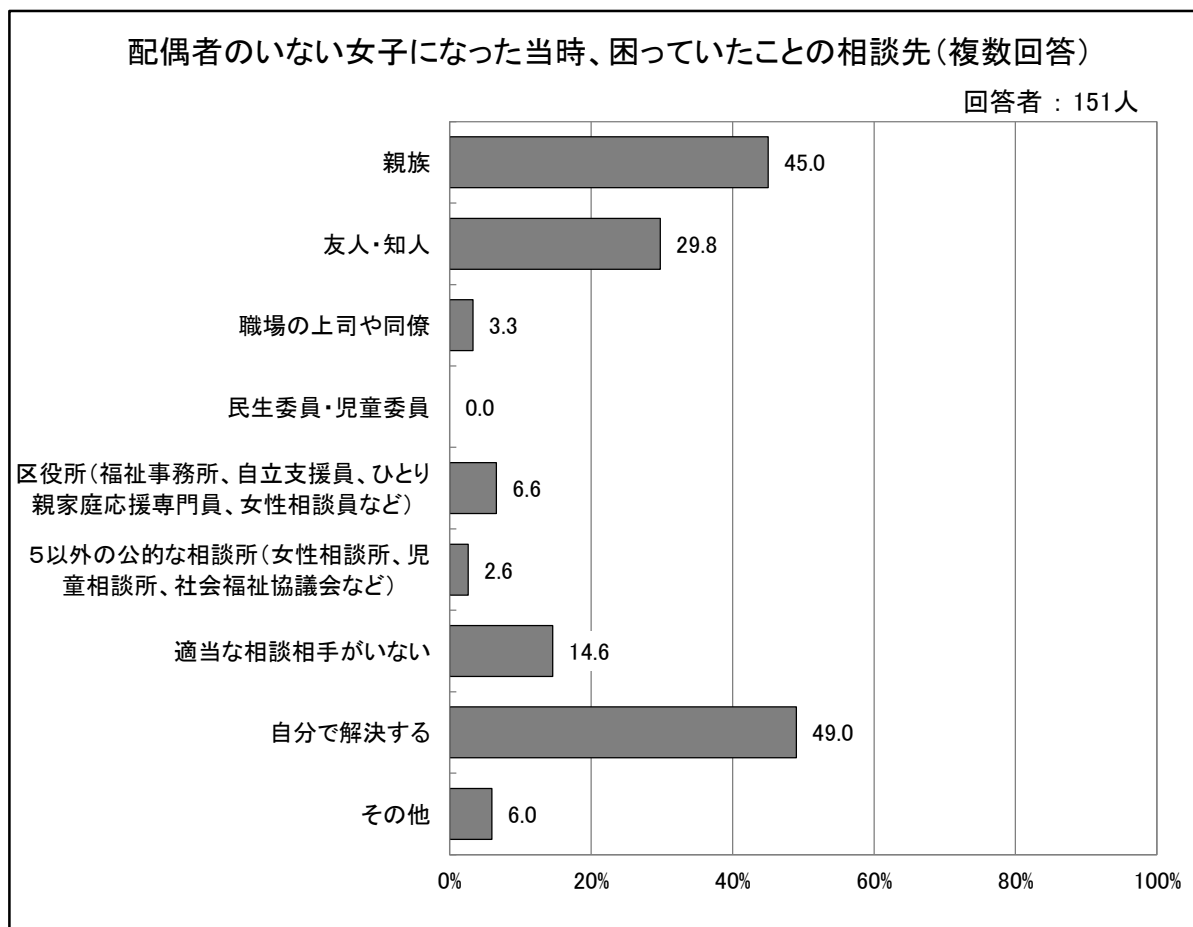
- ①「配偶者のいない女子になった当時、困っていたこと」と
「配偶者のいない女子になった当時、一番困っていたこと」



配偶者のいない女子になった当時、困っていたことは、生活費のことが約6割

配偶者のいない女子になった当時、困っていたことがある人は、全体の約9割(89.5%)を占めており、困っていたことの内容は「生活費のこと」が63.6%と最も多く、次いで「お子さんの教育や、将来のこと」(39.5%)、「仕事のこと」(38.3%)、「住居のこと」(25.3%)、「あなたが精神的に不安定になった」(18.5%)の順となっている。

②配偶者のいない女子になった当時、困っていたことの相談先



困っていたことの相談先は、自分で解決するが約5割、親族が約5割

配偶者のいない女子になった当時、困っていたことの相談先は「自分で解決する」が49.0%と最も多く、次いで「親族」(45.0%)、「友人・知人」(29.8%)の順となっている。

また、「適切な相談相手がいない」は14.6%となっている。

◆ 配偶者のいない女子になった当時、困っていたこと別(当時、困っていたことの相談先)

単位：%

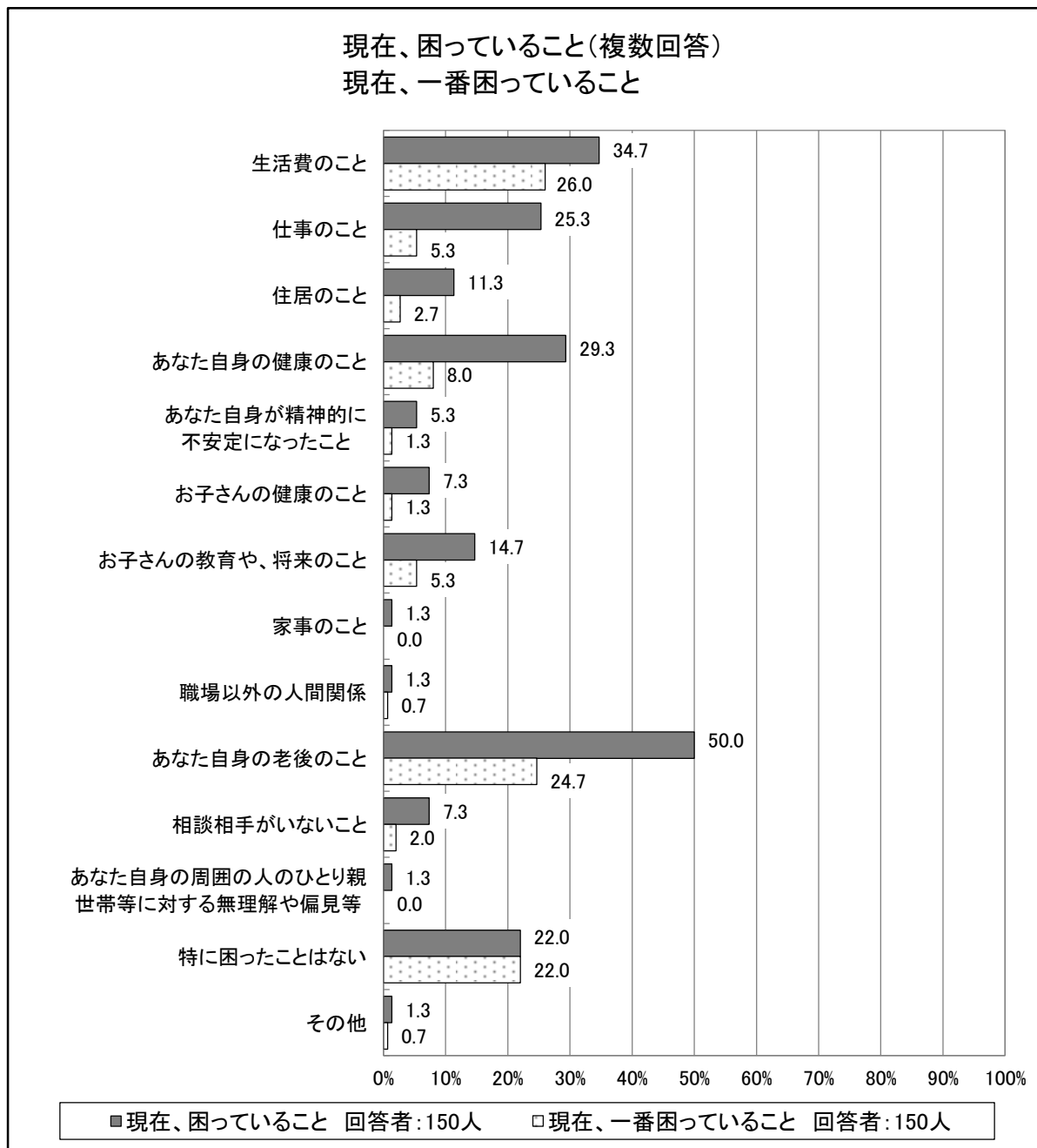
| | 件数 | 相談先（複数回答） | | | | | | | | | | |
|----------------------|-------------------------------|-----------|-------------|-------------|-----------|--------------------------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|-------------|------|------|
| | | 親族 | 友人・知人 | 職場の上司や同僚 | 民生委員・児童委員 | 区役所（福祉事務所、自立支援員、ひとり親家庭応援専門員、女性相談員など） | 5以外の公的な相談所（女性相談所、児童相談所、社会福祉協議会など） | 適当な相談相手がいない | 自分で解決する | その他 | 無回答 | |
| 当時、困っていたこと (複数回答) | 生活費のこと | 103 | 38.8 | 9.7 | 1.0 | 0.0 | 3.9 | 0.0 | 7.8 | 33.0 | 1.9 | 3.9 |
| | 仕事のこと | 62 | 21.0 | 22.6 | 4.8 | 0.0 | 1.6 | 1.6 | 8.1 | 33.9 | 1.6 | 4.8 |
| | 住居のこと | 41 | 43.9 | 17.1 | 0.0 | 0.0 | 2.4 | 2.4 | 4.9 | 22.0 | 0.0 | 7.3 |
| | あなた自身の健康のこと | 15 | 13.3 | 26.7 | 0.0 | 0.0 | 13.3 | 0.0 | 6.7 | 26.7 | 13.3 | 0.0 |
| | あなた自身が精神的に不安定になったこと | 30 | 13.3 | 40.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.3 | 10.0 | 16.7 | 10.0 | 6.7 |
| | お子さんの健康のこと | 12 | 25.0 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 8.3 | 8.3 | 33.3 | 8.3 | 8.3 | 0.0 |
| | お子さんの教育や、将来のこと | 64 | 31.3 | 15.6 | 0.0 | 0.0 | 4.7 | 1.6 | 4.7 | 32.8 | 6.3 | 3.1 |
| | 家事のこと | 6 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 職場以外の人間関係 | 4 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | あなた自身の老後のこと | 24 | 16.7 | 16.7 | 4.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 25.0 | 29.2 | 4.2 | 4.2 |
| | 相談相手がいないこと | 12 | 0.0 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 41.7 | 0.0 | 16.7 |
| | あなた自身の周囲の人のひとり親世帯等に対する無理解や偏見等 | 20 | 15.0 | 35.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 10.0 | 40.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 特に困ったことはない | 17 | 11.8 | 5.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 41.2 | 0.0 | 41.2 |
| | その他 | 3 | 33.3 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 0.0 | 0.0 |

配偶者のいない女子になった当時、それぞれ困っていたことの相談先について、とくに件数の多い「生活費のこと」では「親族」が38.8%と最も多く、次いで「自分で解決する」(33.0%)、「友人・知人」(9.7%)の順となっている。

また、「生活費のこと」「住居のこと」「家事のこと」「職場以外の人間関係」について困っていた人の相談先は「親族」が最も多くなっている。

一方、困っていた時に「自分で解決する」は、「生活費のこと」「仕事のこと」「お子さんの教育や、将来のこと」「家事のこと」「相談相手がいないこと」「あなた自身の周囲の人のひとり親世帯等に対する無理解や偏見等」で3割を超えている。

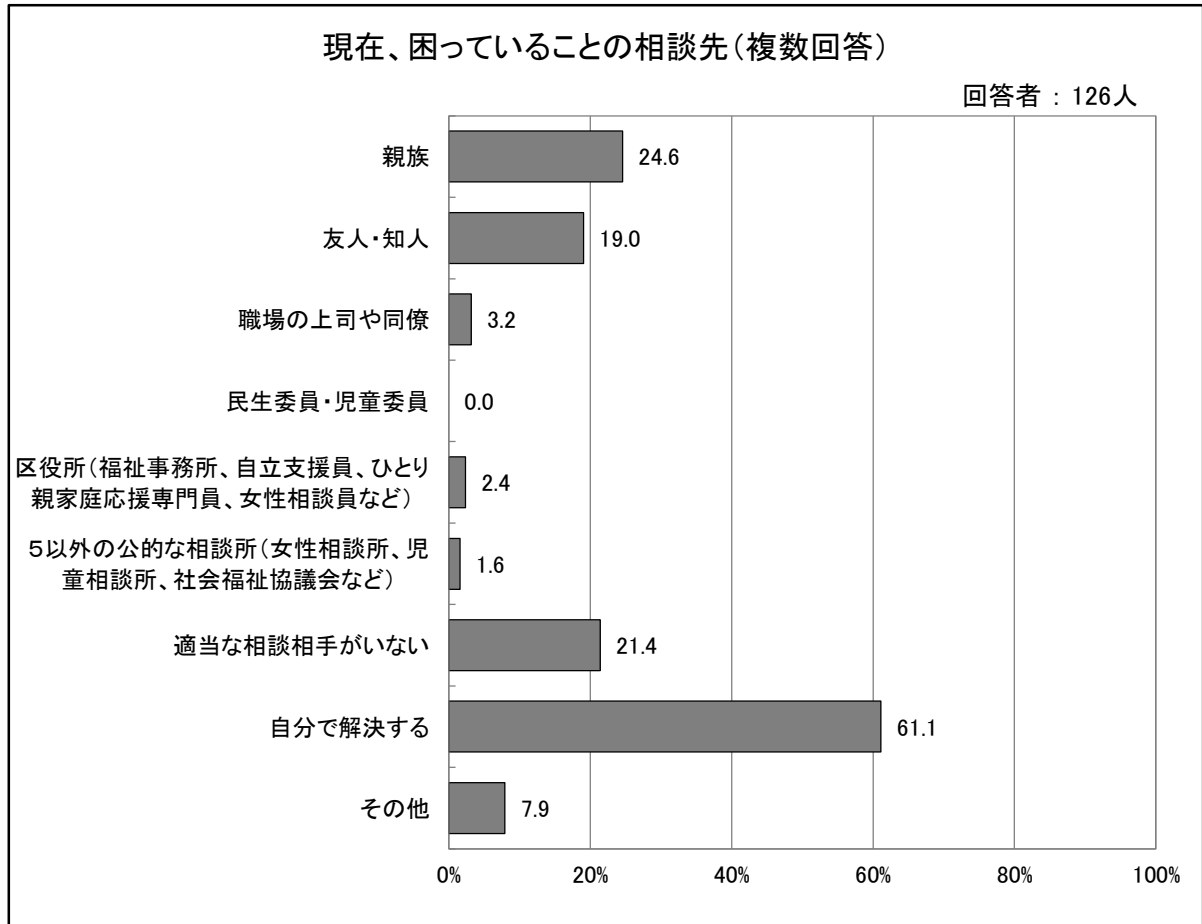
③「現在、困っていること」と「現在、一番困っていること」



現在、困っていることは老後のことが5割

現在、困っていることがある人は、全体の約8割（78.0%）を占めており、困っていることの内容は「あなた自身の老後のこと」が50.0%と最も多く、次いで「生活費のこと」（34.7%）、「あなた自身の健康のこと」（29.3%）の順となっている。

④現在、困っていることの相談先



困っていることの相談先は、自分で解決するが約6割、親族が約2割

現在、困っていることの相談先は「自分で解決する」が 61.1%と最も多く、次いで「親族」(24.6%)、「適切な相談相手がいない」(21.4%)、「友人・知人」(19.0%)の順となっている。

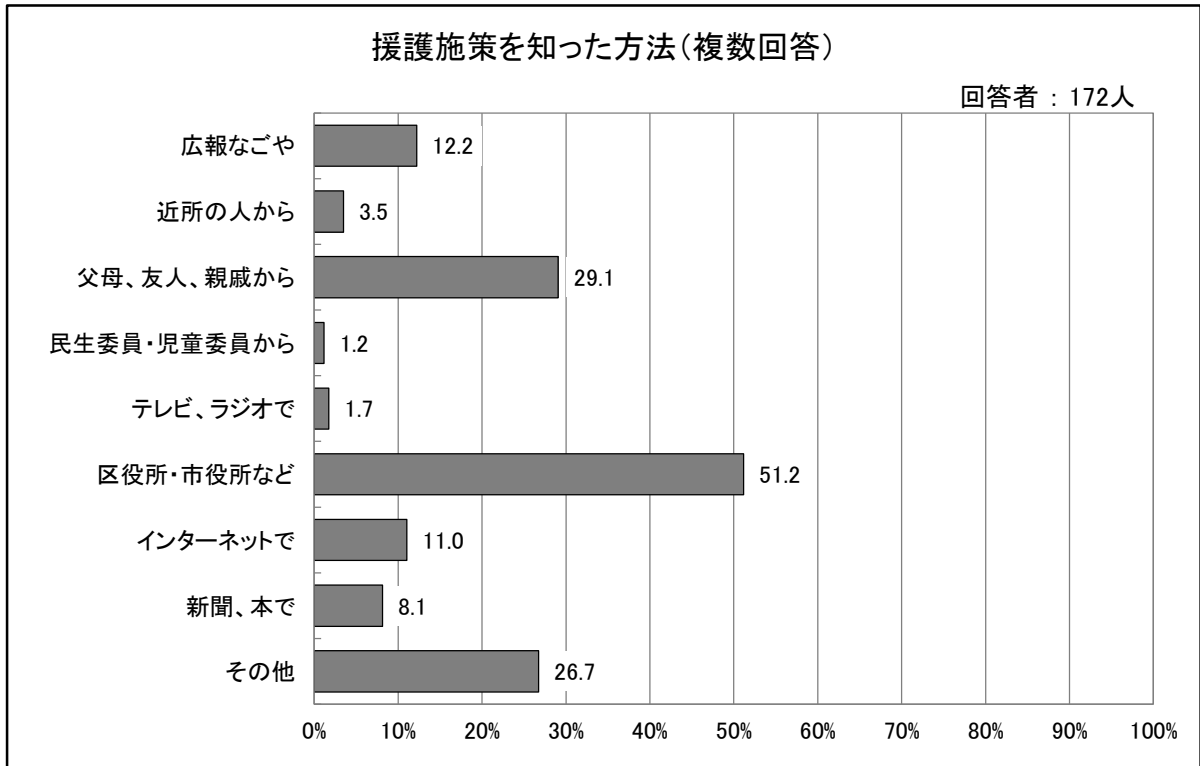
◆ 困っていること別（困っていることの相談先）

単位：%

| | 件数 | 相談先（複数回答） | | | | | | | | | | |
|----------------------|-------------------------------|-----------|-------------|-------------|-------------|--------------------------------------|-----------------------------------|------------|--------------|--------------|------|------|
| | | 親族 | 友人・知人 | 職場の上司や同僚 | 民生委員・児童委員 | 区役所（福祉事務所、自立支援員、ひとり親家庭応援専門員、女性相談員など） | 5以外の公的な相談所（女性相談所、児童相談所、社会福祉協議会など） | 適当な相談相手がない | 自分で解決する | その他 | 無回答 | |
| 現在、困っていること （複数回答） | 生活費のこと | 52 | 19.2 | 11.5 | 1.9 | 0.0 | 3.8 | 0.0 | 17.3 | 44.2 | 1.9 | 0.0 |
| | 仕事のこと | 38 | 5.3 | 23.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.3 | 2.6 | 55.3 | 2.6 | 5.3 |
| | 住居のこと | 17 | 11.8 | 5.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 23.5 | 47.1 | 0.0 | 11.8 |
| | あなた自身の健康のこと | 44 | 18.2 | 11.4 | 2.3 | 0.0 | 2.3 | 0.0 | 4.5 | 43.2 | 9.1 | 9.1 |
| | あなた自身が精神的に不安定になったこと | 8 | 25.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 25.0 | 0.0 |
| | お子さんの健康のこと | 11 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 27.3 | 27.3 | 18.2 | 0.0 |
| | お子さんの教育や、将来のこと | 22 | 22.7 | 13.6 | 4.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.7 | 22.7 | 13.6 | 0.0 |
| | 家事のこと | 2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 職場以外の人間関係 | 2 | 0.0 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | あなた自身の老後のこと | 75 | 17.3 | 13.3 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 16.0 | 46.7 | 4.0 | 1.3 |
| | 相談相手がないこと | 11 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 36.4 | 63.6 | 0.0 | 0.0 |
| | あなた自身の周囲の人のひとり親世帯等に対する無理解や偏見等 | 2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 特に困ったことはない | 33 | 3.0 | 6.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 27.3 | 0.0 | 63.6 |
| | その他 | 2 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

寡婦世帯が現在、それぞれ困っていることの相談先について、とくに件数の多い「あなた自身の老後のこと」では「自分で解決する」が46.7%と最も多く、次いで「親族」が17.3%となっている。

(5) 援護施策を知った方法

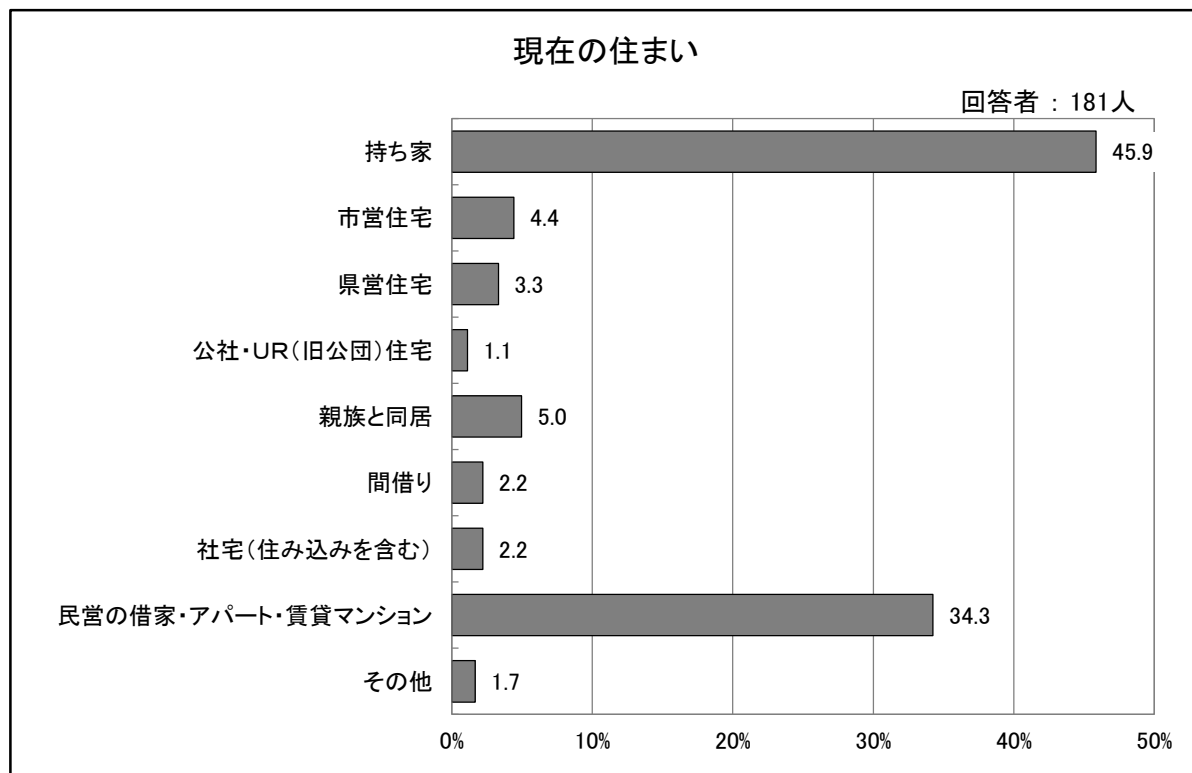


援護施策を知った方法は、区役所・市役所が約5割、父母・友人・親戚が約3割

配偶者のいない女子になった当時、母子・寡婦世帯に対する援護施策を知った方法は、「区役所・市役所など」が51.2%と最も多く、次いで「父母、友人、親戚から」(29.1%)、「広報なごや」(12.2%)の順となっている。

3 住まいについて

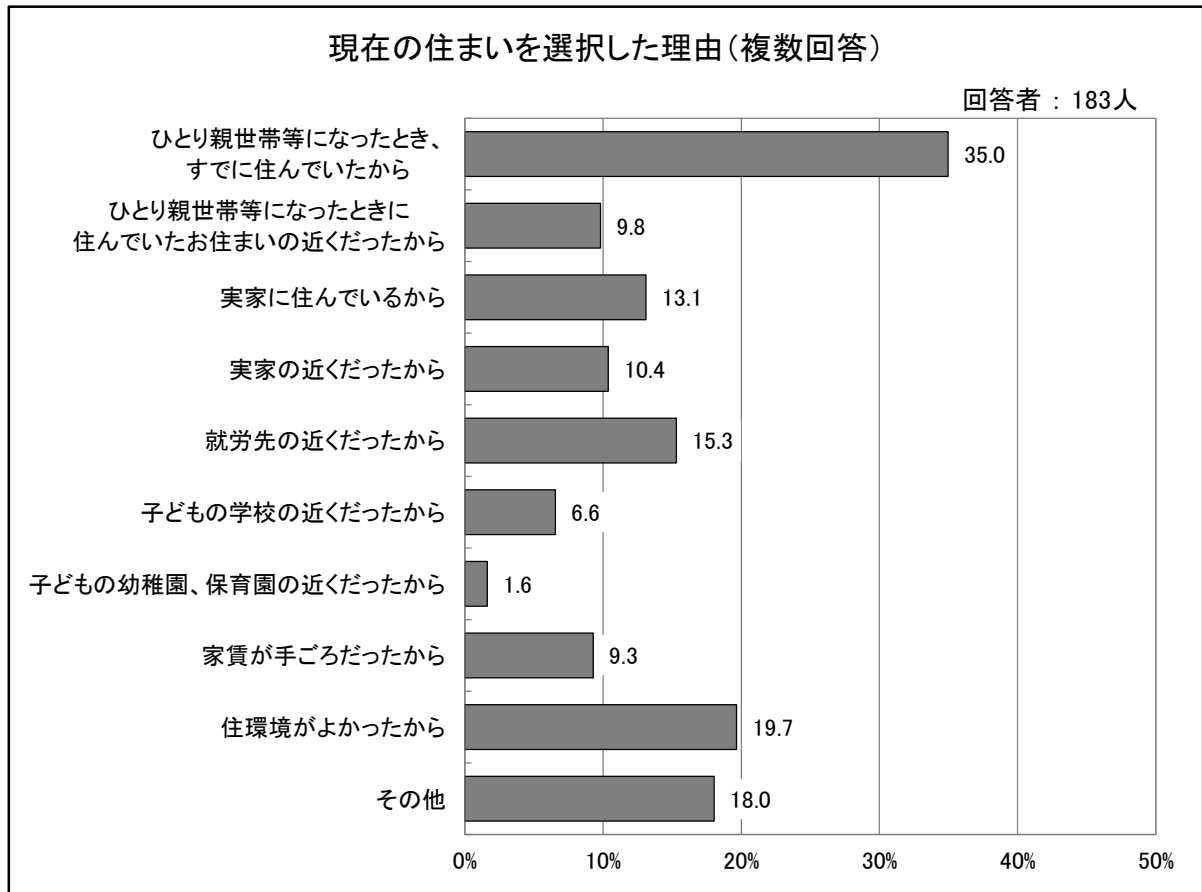
(1) 現在の住まい



住居は持ち家が約5割、民営の借家・アパート・賃貸マンションが約3割

寡婦世帯の住居は、「持ち家」が45.9%と最も多く、次いで「民営の借家・アパート・賃貸マンション」が34.3%となっている。

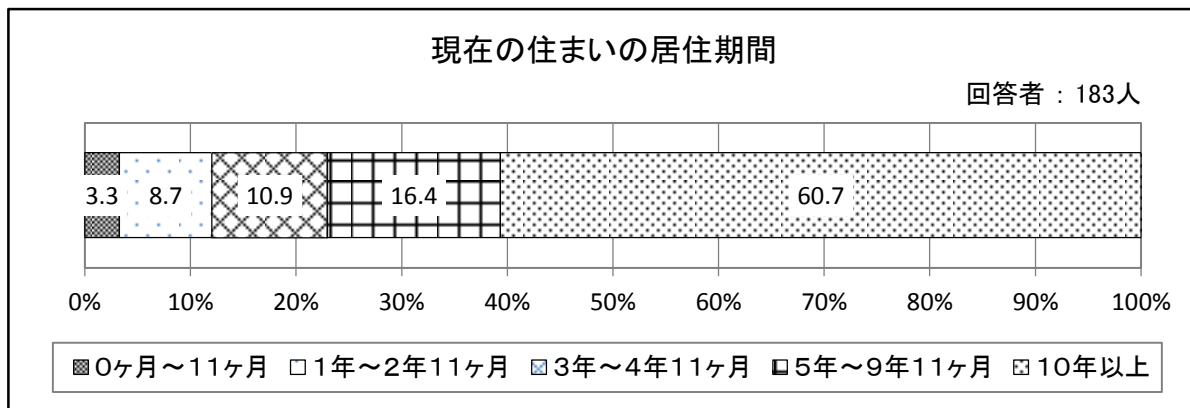
(2) 現在の住まいを選択した理由



ひとり親世帯等になったとき現在の住まいにすでに住んでいた人が約4割

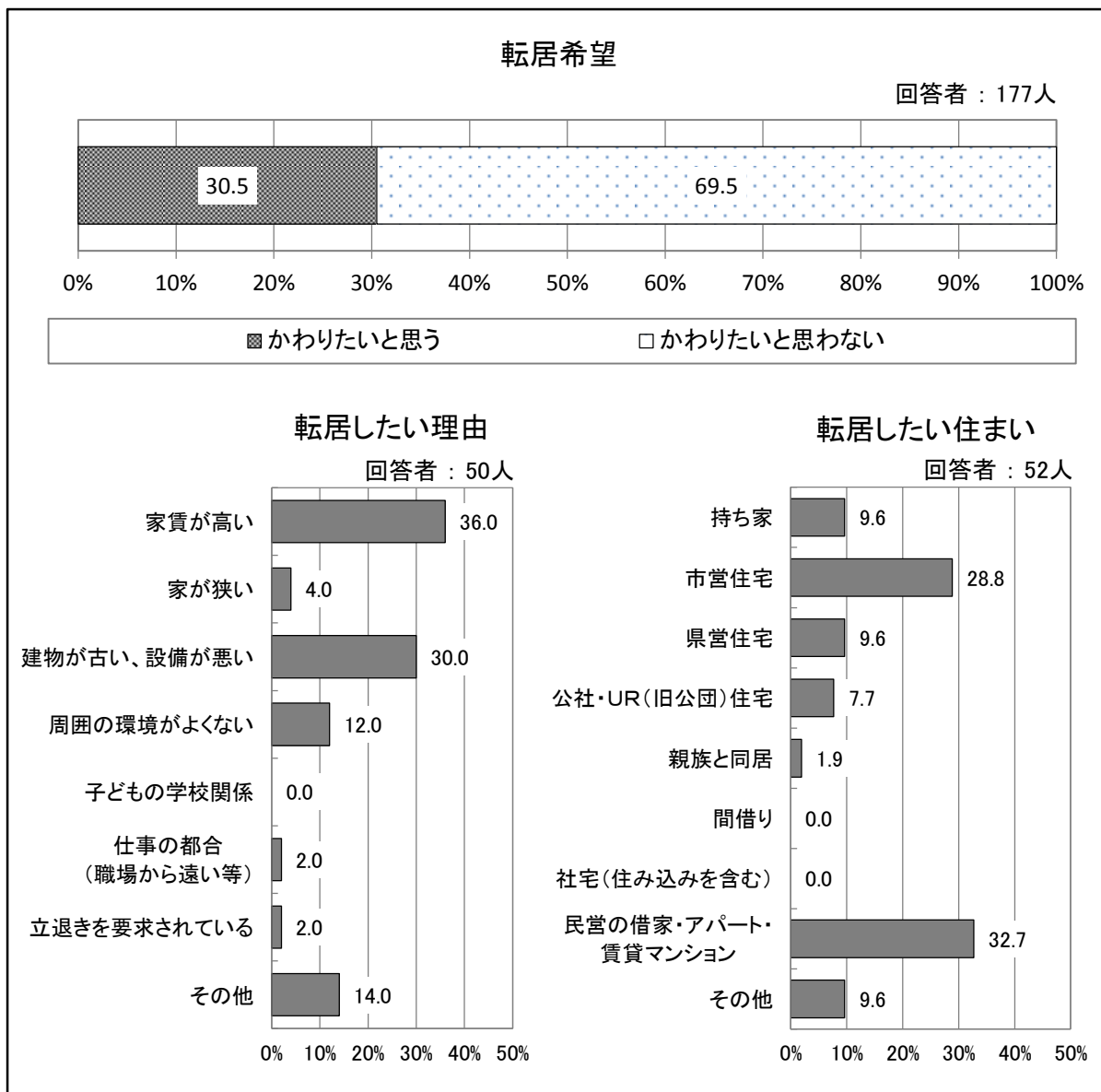
現在の住まいを選択した理由をみると、「ひとり親世帯等になったとき、すでに住んでいたから」が35.0%と最も多く、次いで「住環境がよかったから」(19.7%)、「就労先の近くだったから」(15.3%)の順となっている。

(3) 現在の住まいの居住期間

**現在の住まいに住みはじめて10年以上が約6割**

現在の住まいの居住期間をみると、「10年以上」が60.7%と最も多く、次いで「5年～9年11ヶ月」(16.4%)、「3年～4年11ヶ月」(10.9%)の順となっている。

(4) 転居の希望・住まいの不満

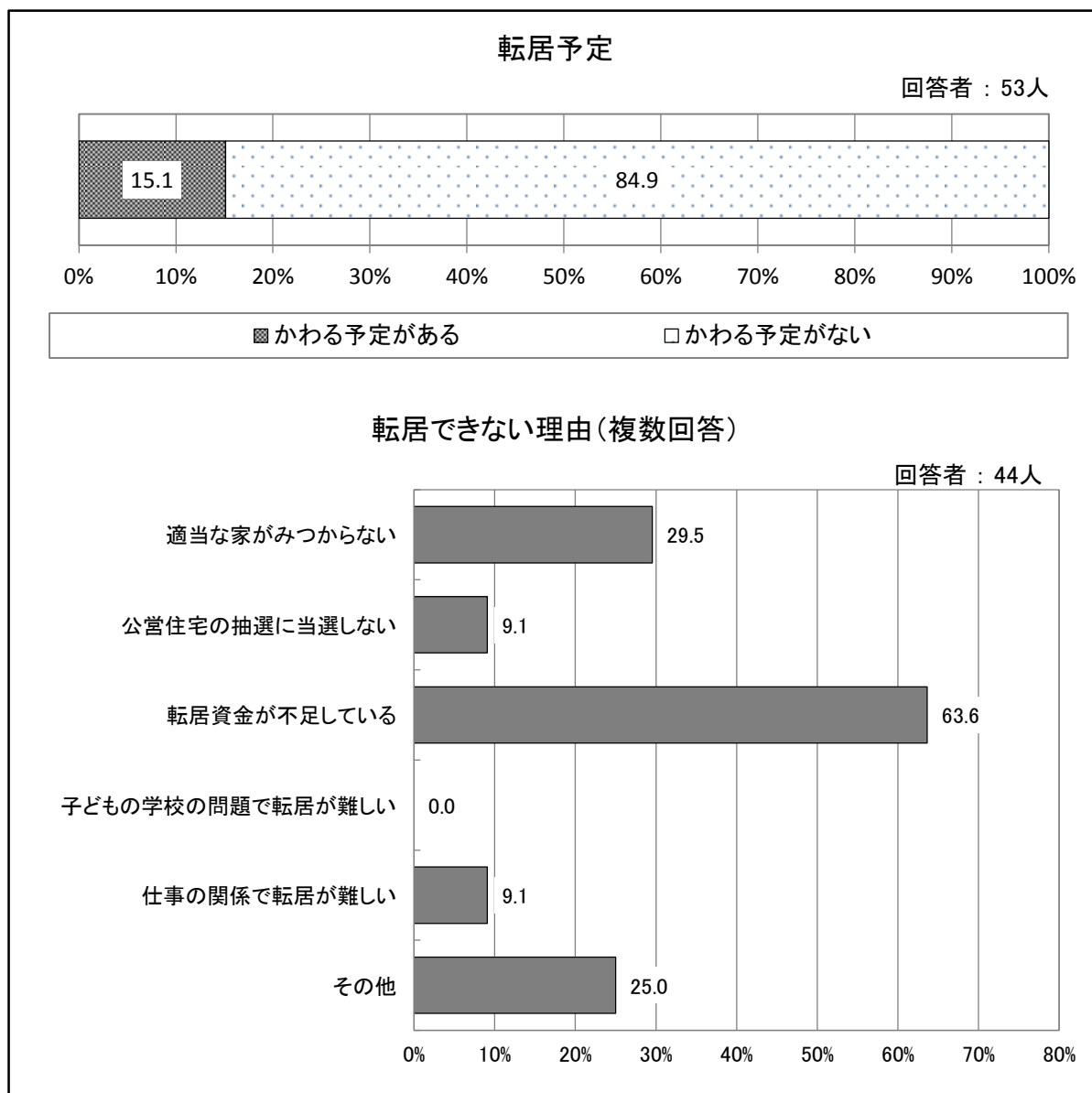


現在の住まいをかわりたい人は約3割
かわりたい希望の住まいは、民営の借家・アパート・賃貸マンションが約3割、市営住宅が約3割

現在の住まいを「かわりたいと思う」人は 30.5%、「かわりたいと思わない」人は 69.5%となっている。

また、「かわりたいと思う」人の理由は、「家賃が高い」が 36.0%と最も多く、次いで「建物が古い、設備が悪い」(30.0%)、「周囲の環境がよくない」(12.0%)の順となっており、かわりたい希望の住まいは、「民営の借家、アパート、賃貸マンション」が 32.7%と最も多く、次いで「市営住宅」(28.8%)、「持ち家」(9.6%)、「県営住宅」(9.6%)の順となっている。

(5) 転居する予定



現在の住まいをかわりたい人で、かわる予定がある人は約2割

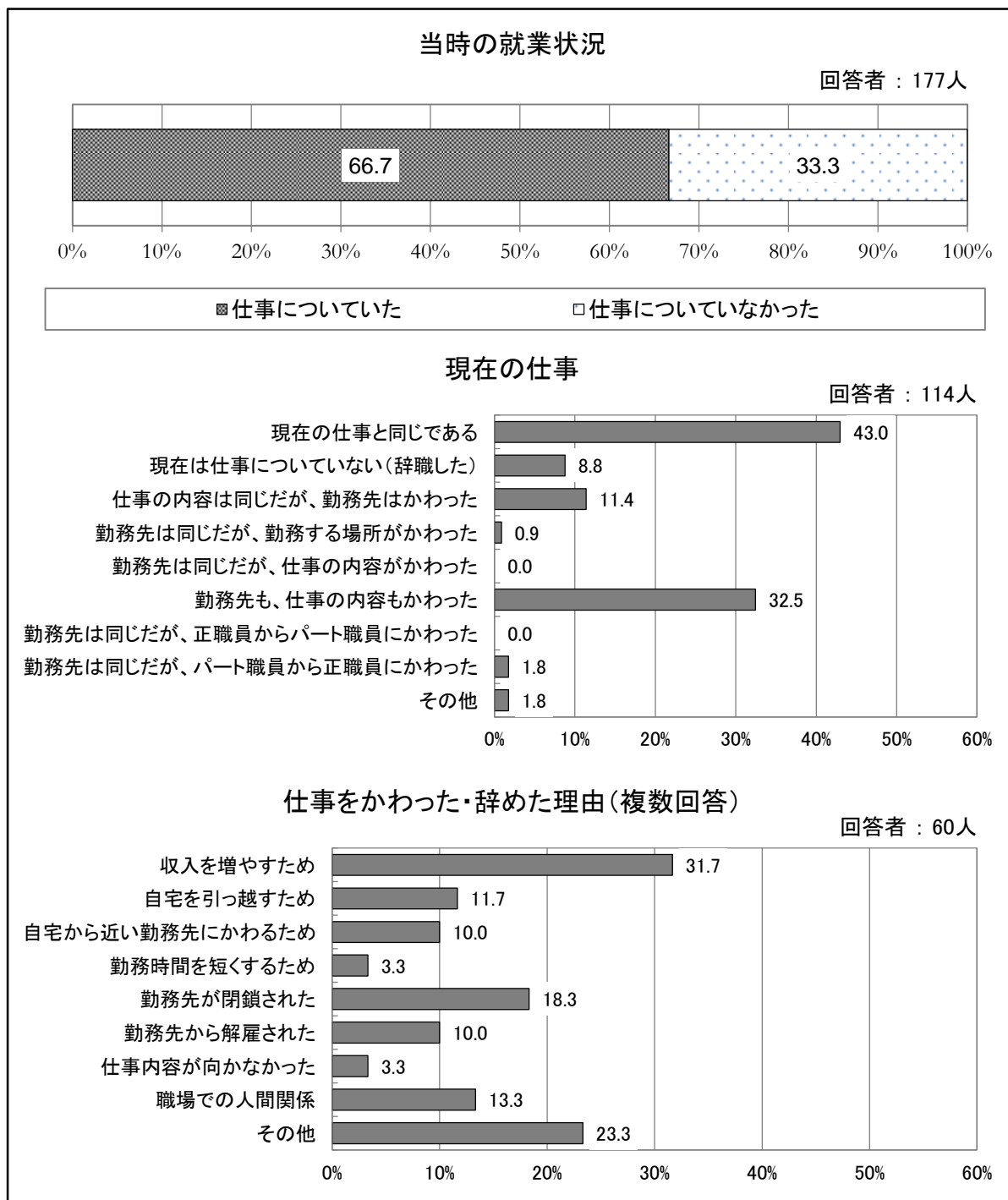
また、転居できない理由は、転居資金不足が約6割

現在の住まいをかわりたい人の転居予定をみると、住まいを「かわる予定がある」人は15.1%、「かわる予定がない」人は84.9%となっている。

また、かわる予定がない人で転居できない理由をみると、「転居資金が不足している」が63.6%と最も多く、次いで「適当な家が見つからない」(29.5%)となっている。

4 寡婦の就業状況

(1) 配偶者のいない女子になった当時と現在の仕事

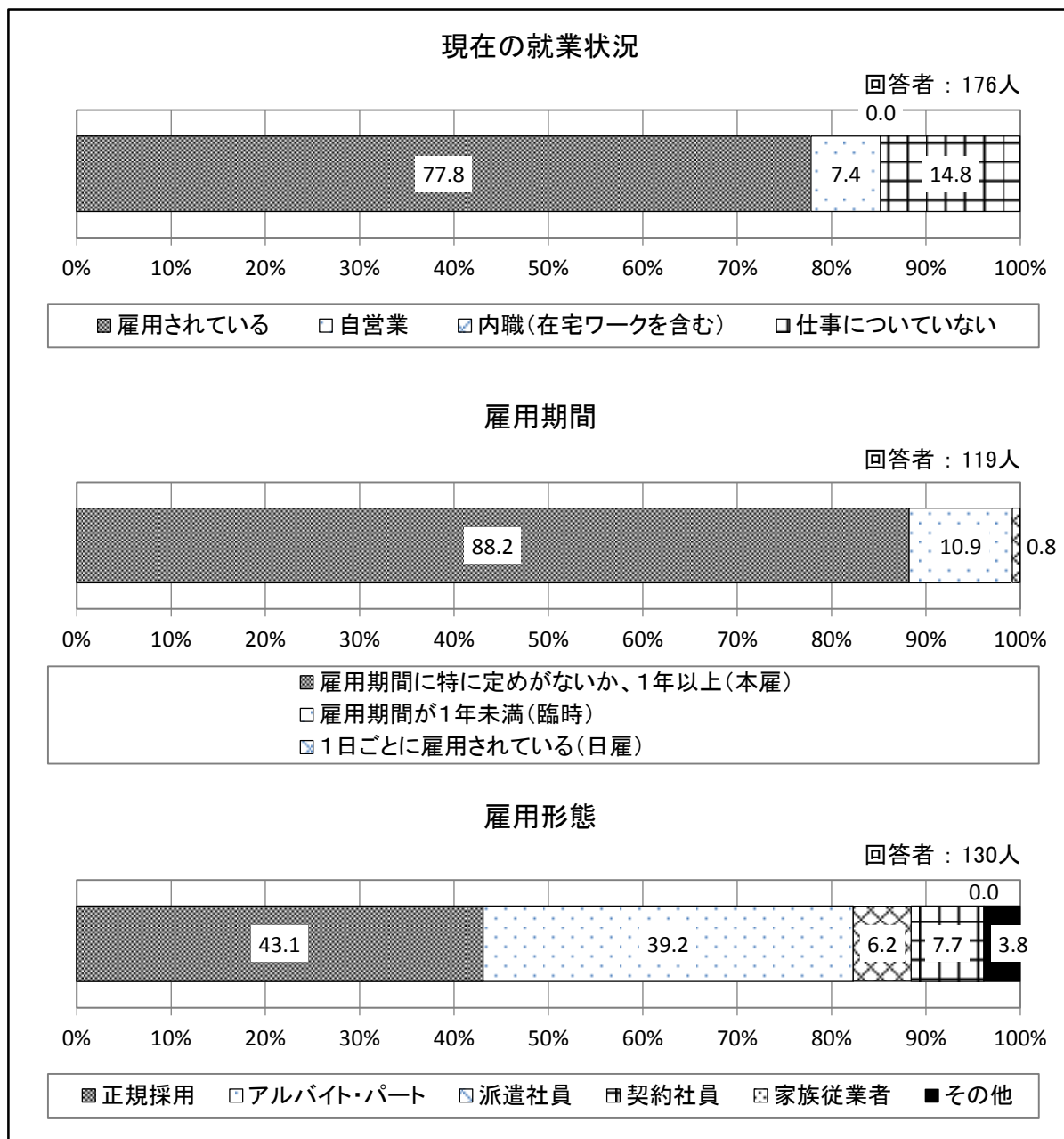


当時仕事についていた人は約7割、そのうち同じ仕事を続けている人は約4割

配偶者のいない女子になった当時の就業状況について、「仕事についていた」は 66.7%となっており、そのうち「現在の仕事と同じである」は、43.0%となっている。

また、仕事を変更した理由について、「収入を増やすため」が 31.7%と最も高くなっている。

(2) 現在の就業状況



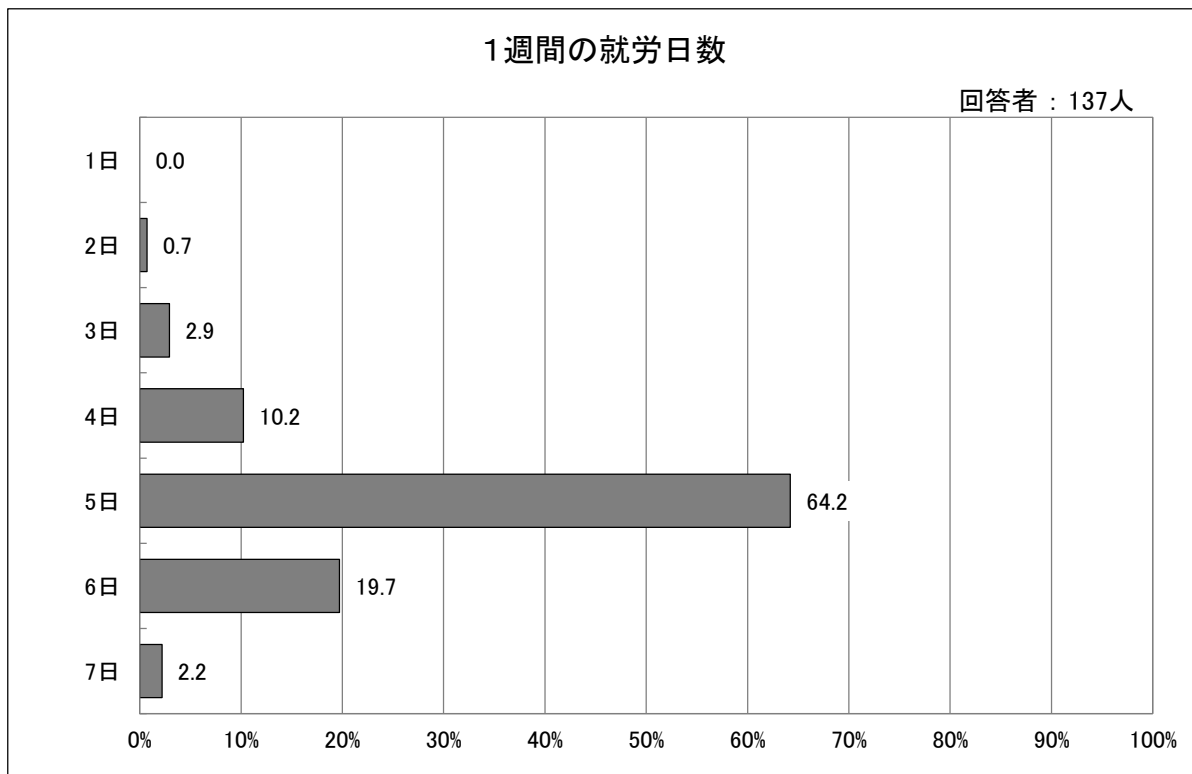
**寡婦の約9割は仕事についており、雇用期間が1年以上の人が約9割
また、雇用形態は正規採用が約4割、アルバイト・パートが約4割**

寡婦の就業状況については、「雇用されている」が77.8%と最も多く、「自営業」(7.4%)を合わせると仕事についている人は85.2%となっている。

雇用されている人の雇用期間については、「雇用期間に特に定めがないか、1年以上(本雇)」が88.2%と最も多くなっている。

また、雇用形態については、「正規採用」が43.1%と最も多く、次いで「アルバイト・パート」(39.2%)、「契約社員」(7.7%)の順となっている。

(3) 1週間の就労日数

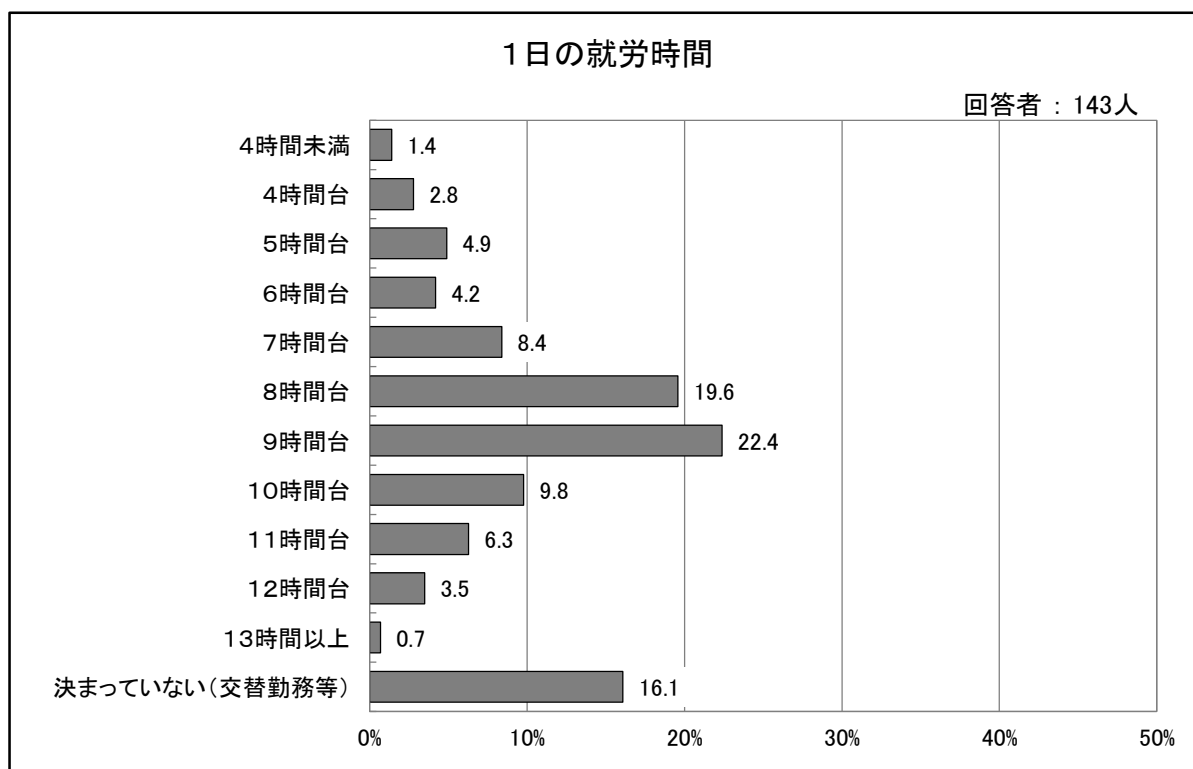


1週間の就労日数は5日が約6割、6日が約2割

1週間の就労日数は、「5日」が64.2%と最も多く、次いで「6日」(19.7%)、「4日」(10.2%)の順となっている。

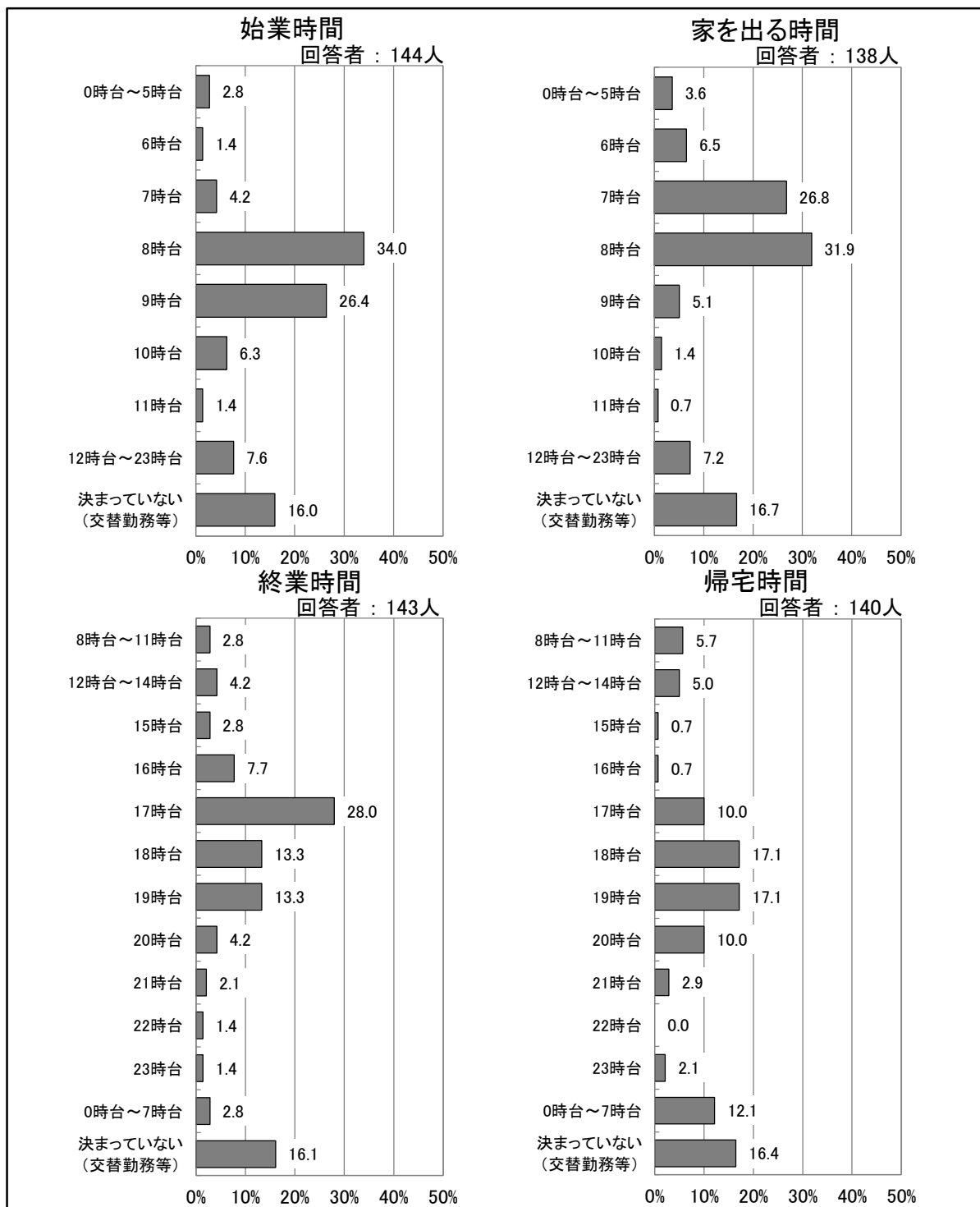
(4) 1日の就労状況

①1日の就労時間

**1日の就労時間は9時間台が約2割**

1日の就労時間については、「9時間台」が22.4%と最も多く、次いで「8時間台」(19.6%)、「10時間台」(9.8%)の順となっている。

② 始業時間と終業時間、家を出る時間と帰宅時間



始業時間は8時台が約3割、終業時間は17時台が約3割

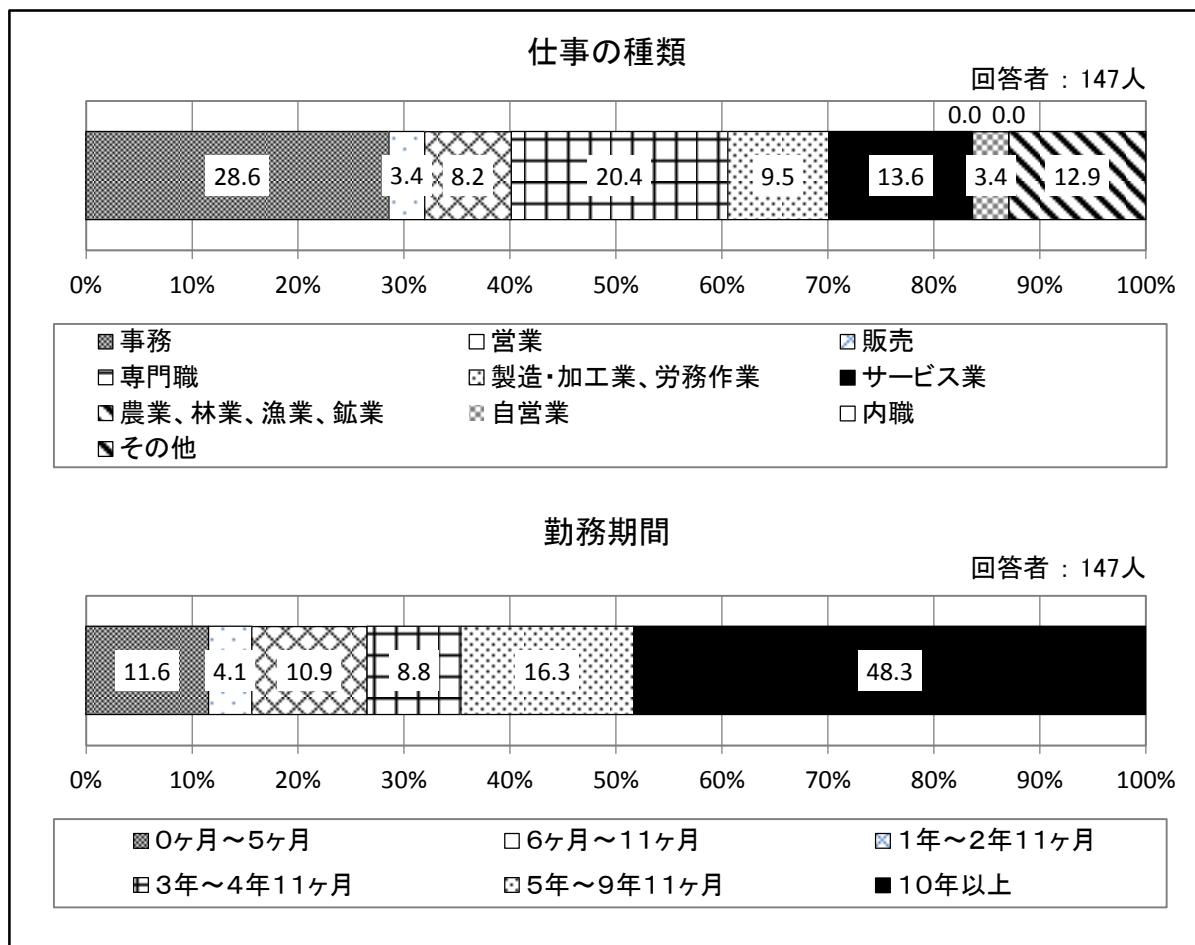
家を出る時間は8時台が約3割、帰宅時間は18時台が約2割・19時台が約2割

始業時間については、「8時台」が34.0%と最も多く、次いで「9時台」(26.4%)、終業時間については、「17時台」が28.0%と最も多く、次いで「18時台」と「19時台」がいずれも13.3%となっている。

家を出る時間については、「8時台」が31.9%と最も多く、次いで「7時台」(26.8%)、帰宅時間については、「18時台」「19時台」が17.1%と最も多く、次いで「0時台～7時台」(12.1%)となっている。

また、「決まっていない(交代勤務等)」は約2割となっている。

(5) 仕事の種類と勤務期間

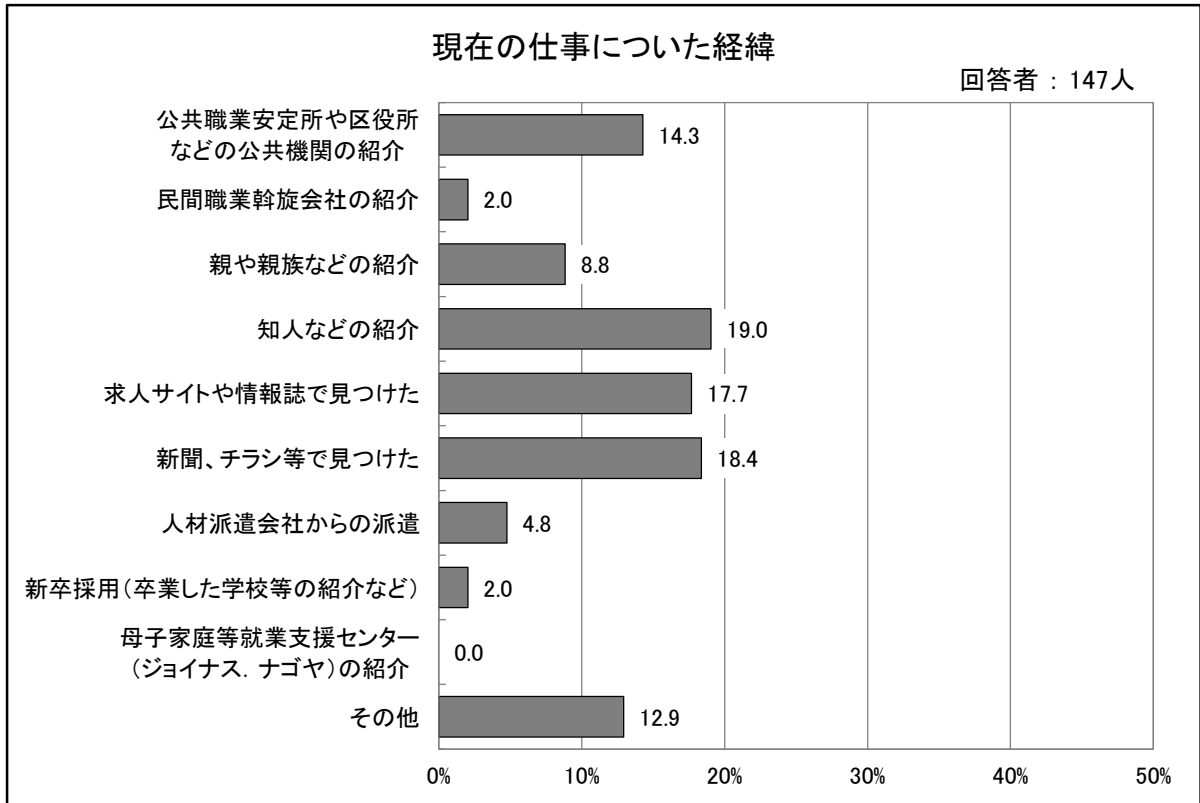


**職種は事務が約3割、専門職が約2割
また、勤務している期間は10年以上が約5割**

仕事の種類については、「事務」が28.6%と最も多く、次いで「専門職」(20.4%)、「サービス業」(13.6%)の順となっている。

勤務している期間をみると、「10年以上」が48.3%と最も多く、次いで「5年～9年11ヶ月」(16.3%)、「0ヶ月～5ヶ月」(11.6%)、「1年～2年11ヶ月」(10.9%)の順となっている。

(6) 現在の仕事についての経緯

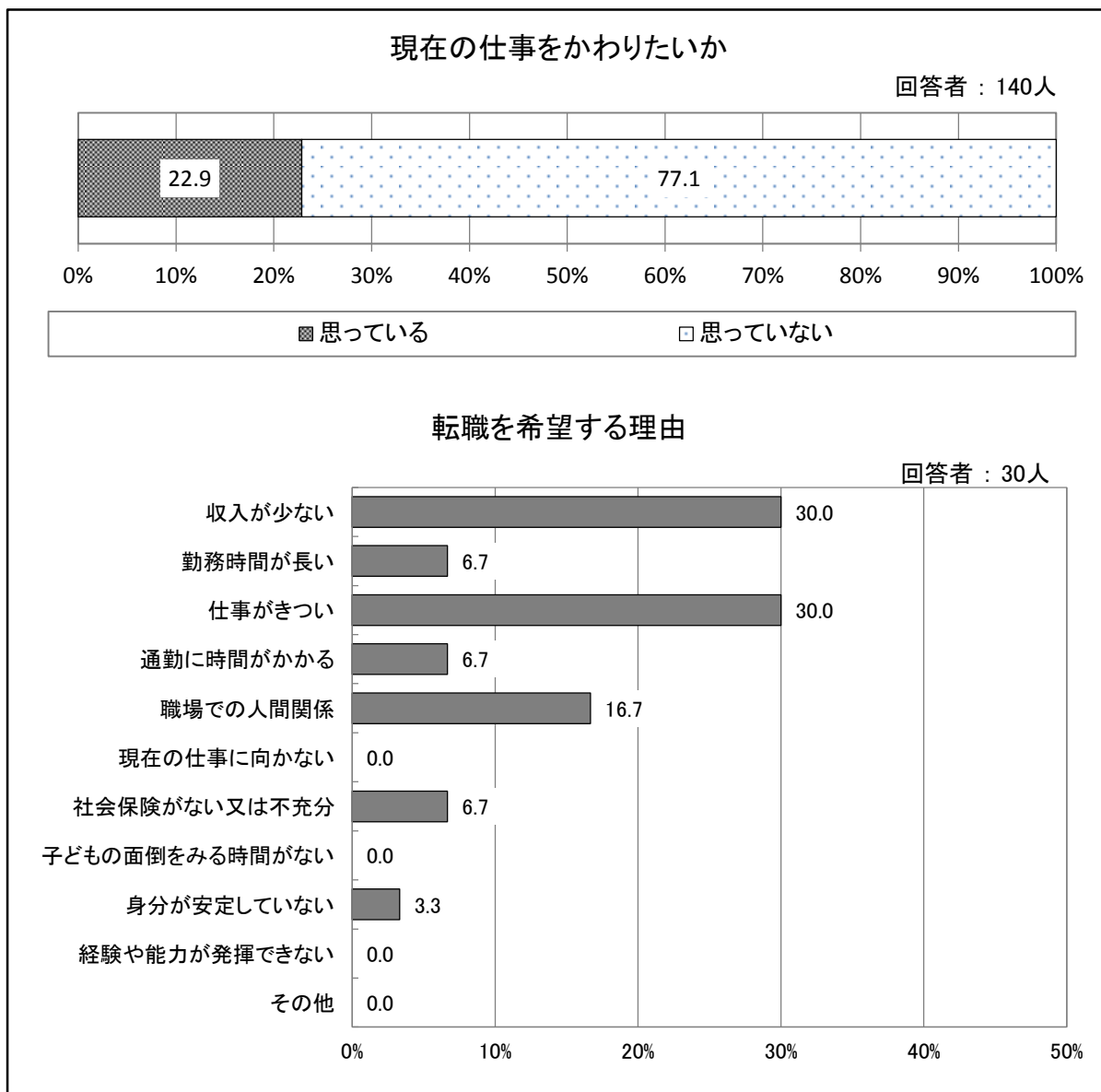


仕事についての経緯は、知人などの紹介、新聞・チラシ、求人サイト・情報誌がそれぞれ約2割

仕事についての経緯については、「知人などの紹介」が 19.0%と最も多く、次いで「新聞、チラシ等で見つけた」(18.4%)、「求人サイトや情報誌で見つけた」(17.7%)、「公共職業安定所や区役所などの公共機関の紹介」(14.3%)の順となっている。

(7) 仕事の悩みと転職の希望

① 転職の希望

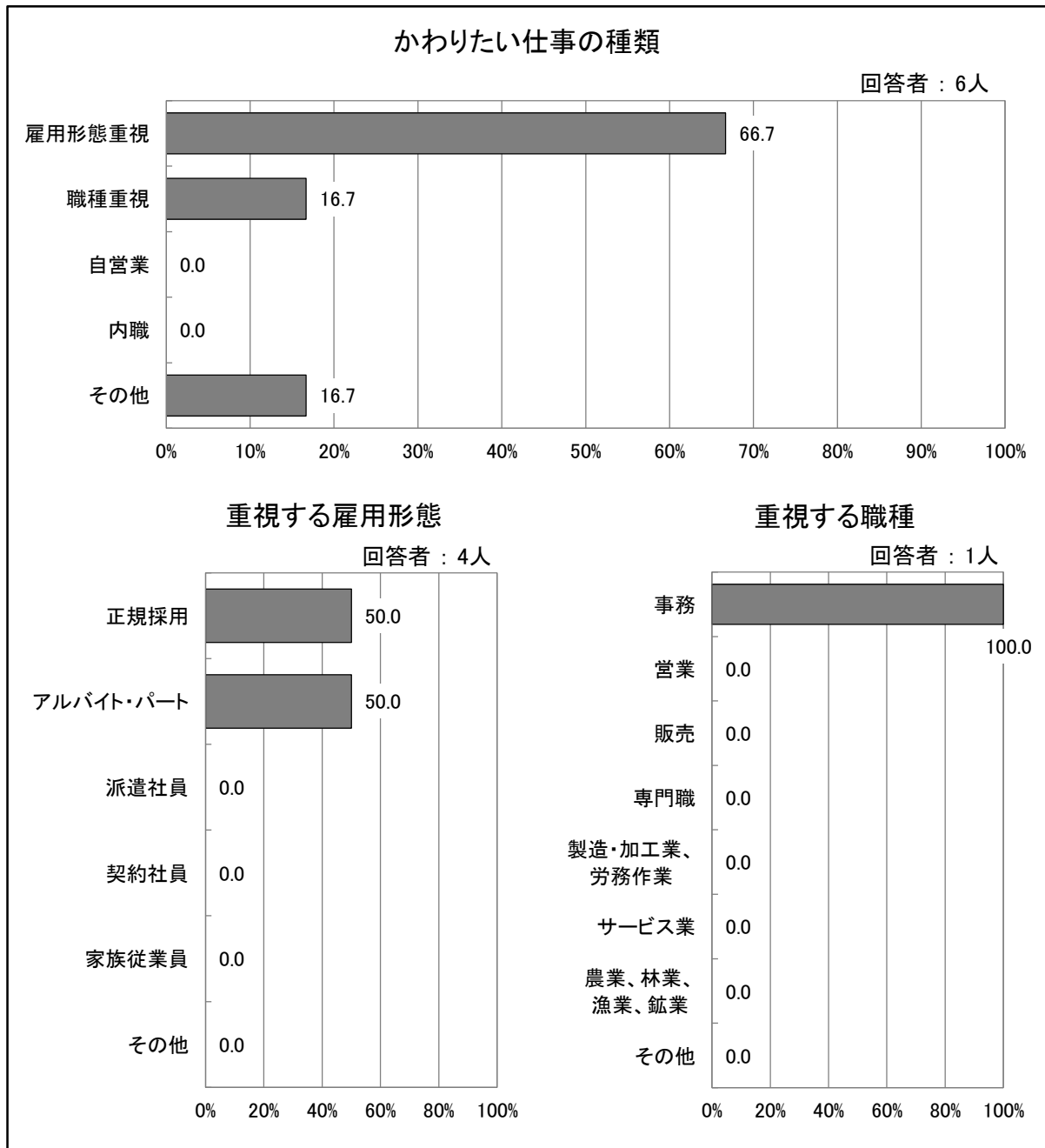


**転職を希望する人は約2割、
転職したい理由は収入が少ないことが3割、仕事がついことが3割**

現在、仕事についている人のうち、現在の仕事をかわりたいと「思っている」人は 22.9%、「思っていない」人は 77.1%となっている。

また、転職を希望している人の転職理由については、「収入が少ない」と「仕事がつい」がいずれも 30.0%と最も多く、次いで「職場での人間関係」(16.7%)となっている。

②希望の職種

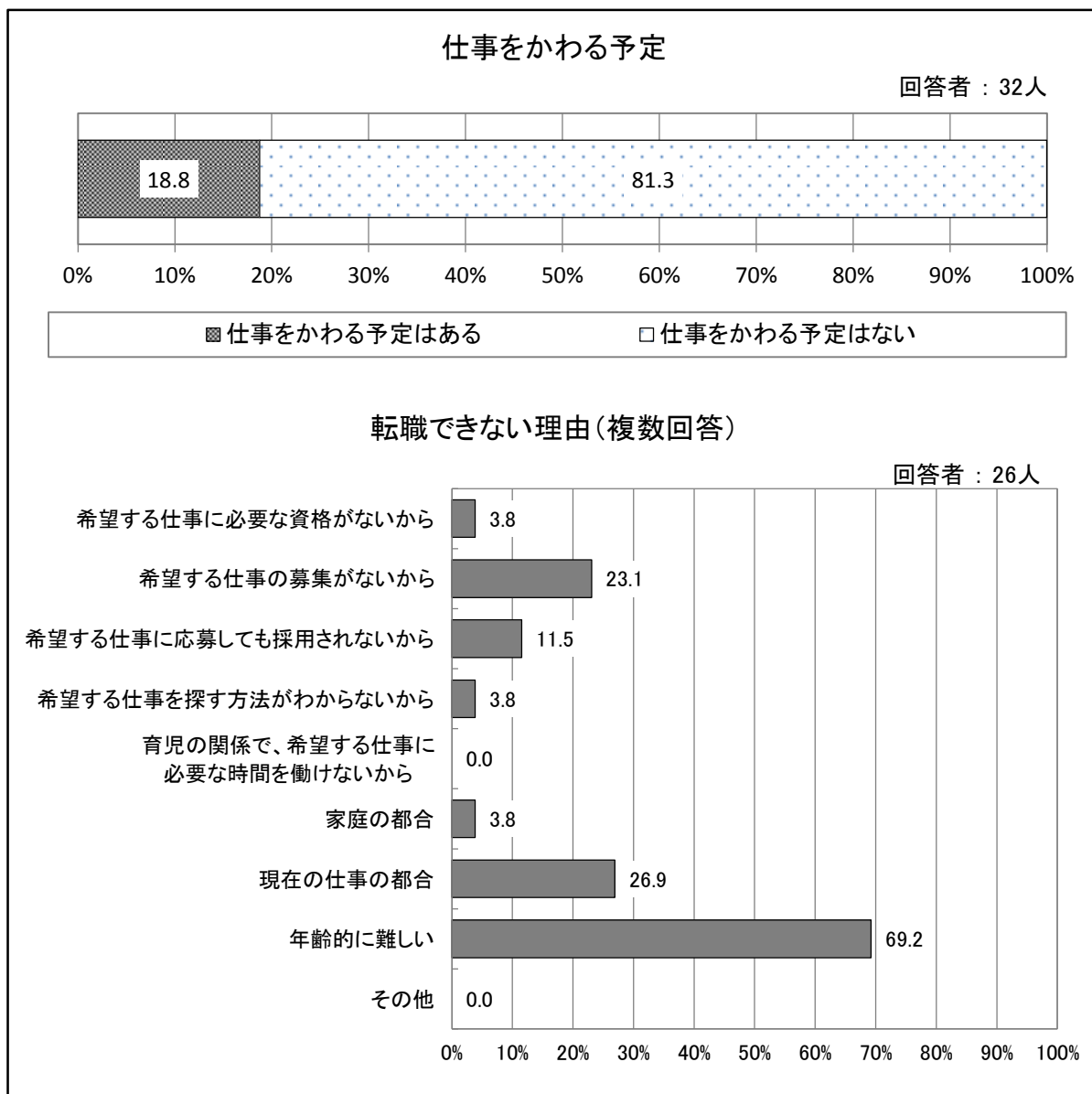


かわりたい仕事の種類は、雇用形態重視が約7割

仕事をかわりたいと思っている人の希望する仕事の種類は、「雇用形態重視」が 66.7%と最も多く、次いで「職種重視」が 16.7%となっている。

重視する雇用形態は「正規採用」と「アルバイト・パート」がいずれも 50.0%となっている。

③ 転職予定

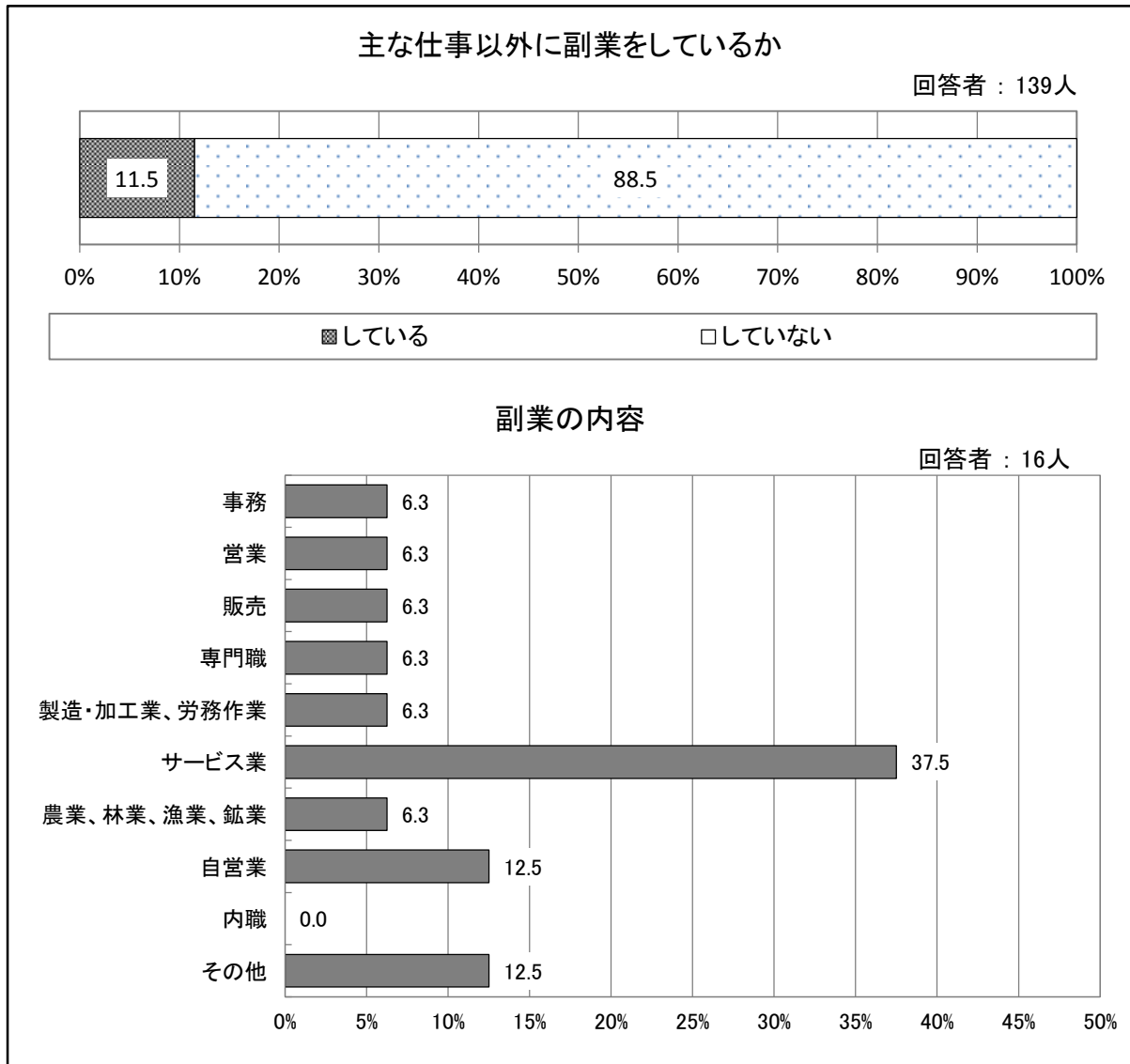


仕事をかわる予定はない人が約8割、その理由は、年齢的に難しいが約7割

仕事をかわりたいと思っている人の転職予定の有無をみると、「仕事をかわる予定はある」人は18.8%で、「仕事をかわる予定はない」人は81.3%となっている。

また、仕事をかわる予定はない人で、転職できない理由をみると、「年齢的に難しい」が69.2%と最も多く、次いで「現在の仕事の都合」(26.9%)、「希望する仕事の募集がないから」(23.1%)の順となっている。

(8) 副業



副業をしている人が約1割、職種はサービス業が約4割

主な仕事以外に別の仕事（副業）をしているかについて、「している」が11.5%、「していない」が88.5%となっている。

また、副業の職種について「サービス業」（37.5%）が最も多く、次いで「自営業」（12.5%）となっている。

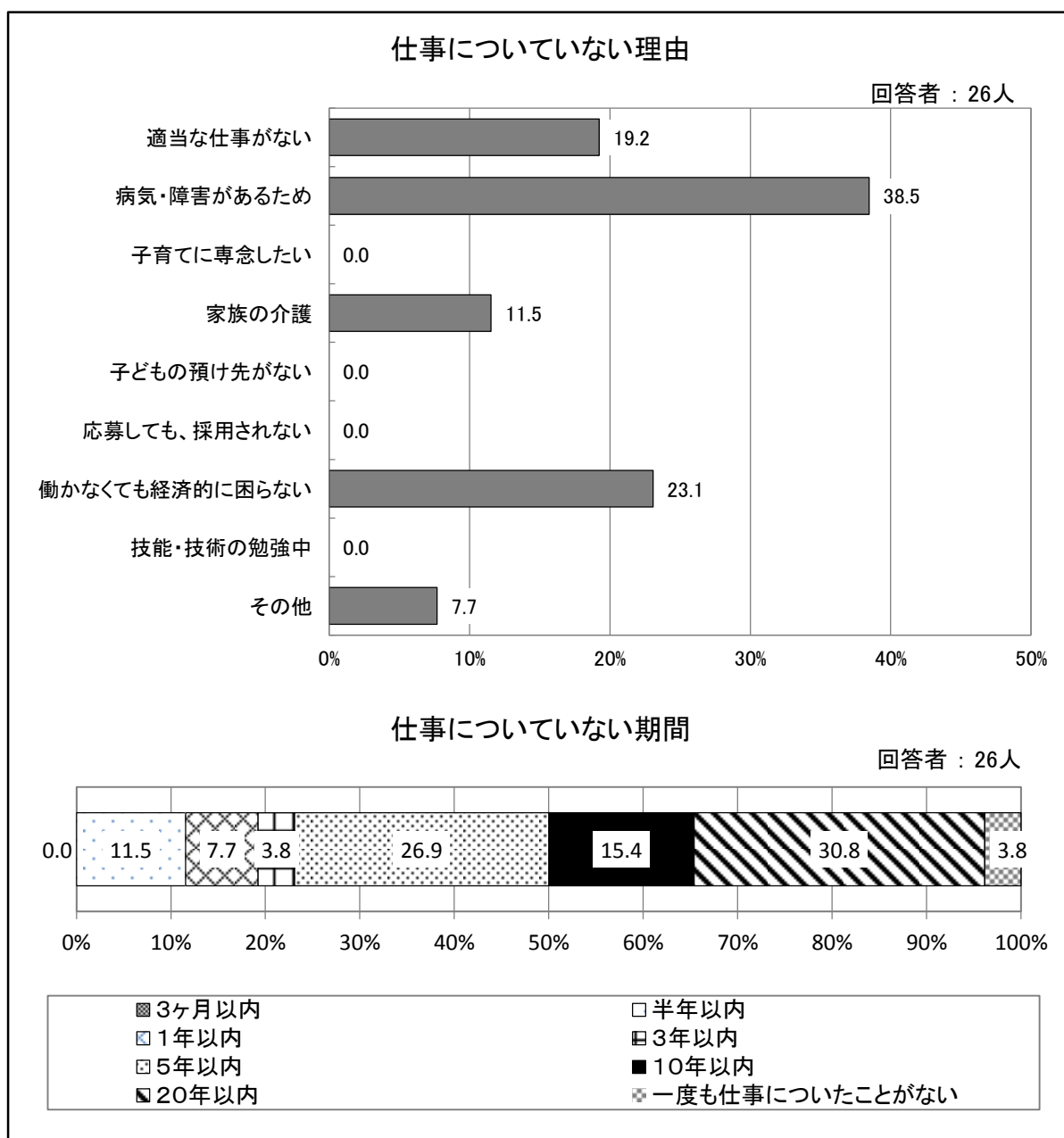
◆ 副業の収入（年収）

単位：%

| | 調査数 | 副業（年収） | | | | | | | | | |
|------|-----|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|---------------|---------------|---------|
| | | 10万円未満 | 10万円～20万円未満 | 20万円～30万円未満 | 30万円～40万円未満 | 40万円～50万円未満 | 50万円～70万円未満 | 70万円～100万円未満 | 100万円～150万円未満 | 150万円～200万円未満 | 200万円以上 |
| 寡婦世帯 | 15 | 33.3 | 0.0 | 13.3 | 20.0 | 6.7 | 6.7 | 0.0 | 13.3 | 6.7 | 0.0 |

(9) 仕事についていない方の状況

①仕事についていない理由と期間



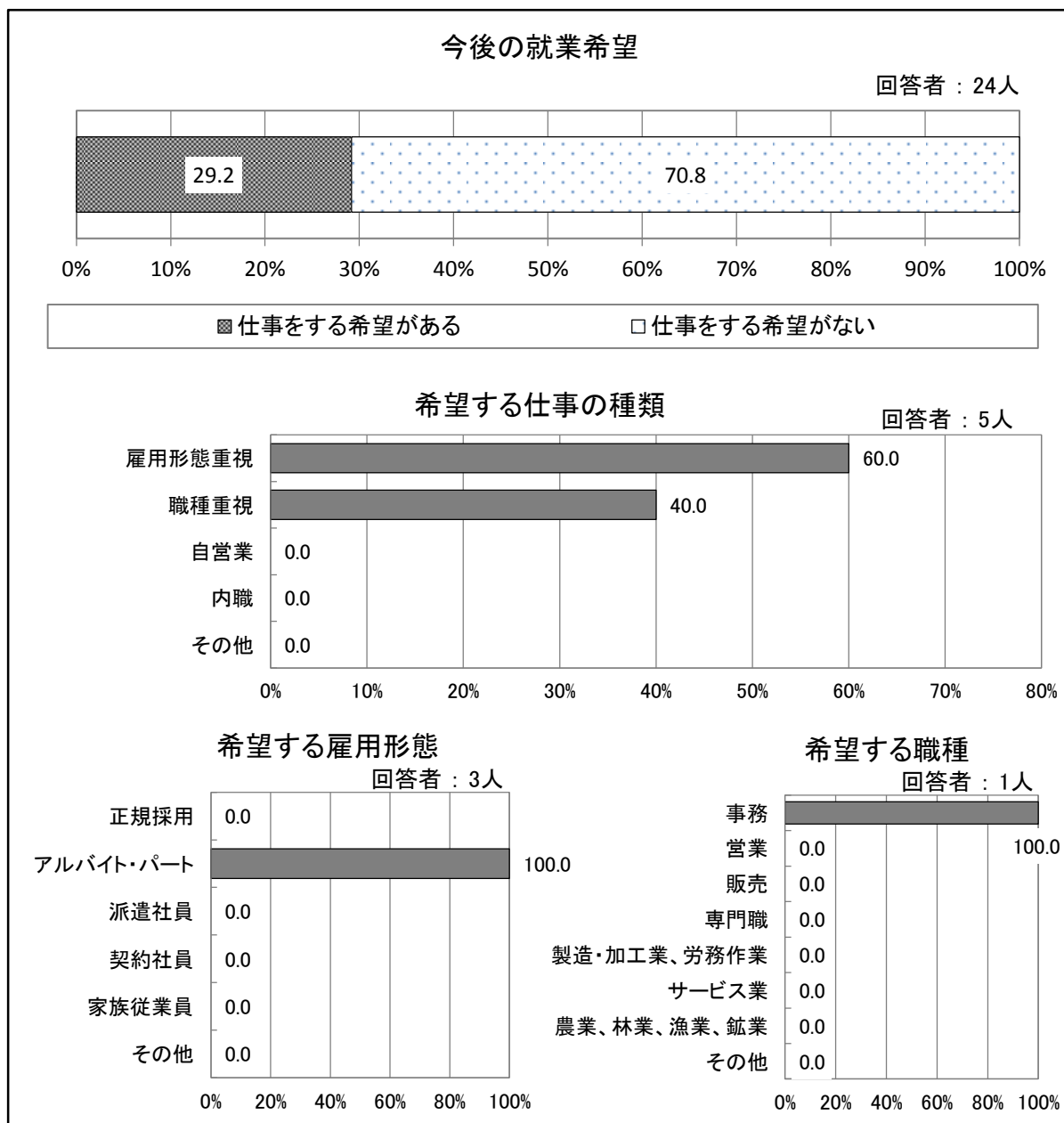
仕事についていない理由は、病気・障害があるためが約4割

仕事についていない期間は、1年以内が約2割

仕事についていない理由として、「病気・障害があるため」が38.5%と最も多く、次いで「働かなくても経済的に困らない」(23.1%)、「適切な仕事がない」(19.2%)の順となっている。

また、仕事についていない期間として、「20年以内」が30.8%と最も多く、次いで「5年以内」(26.9%)、「10年以内」(15.4%)の順となっている。

②今後の就業希望

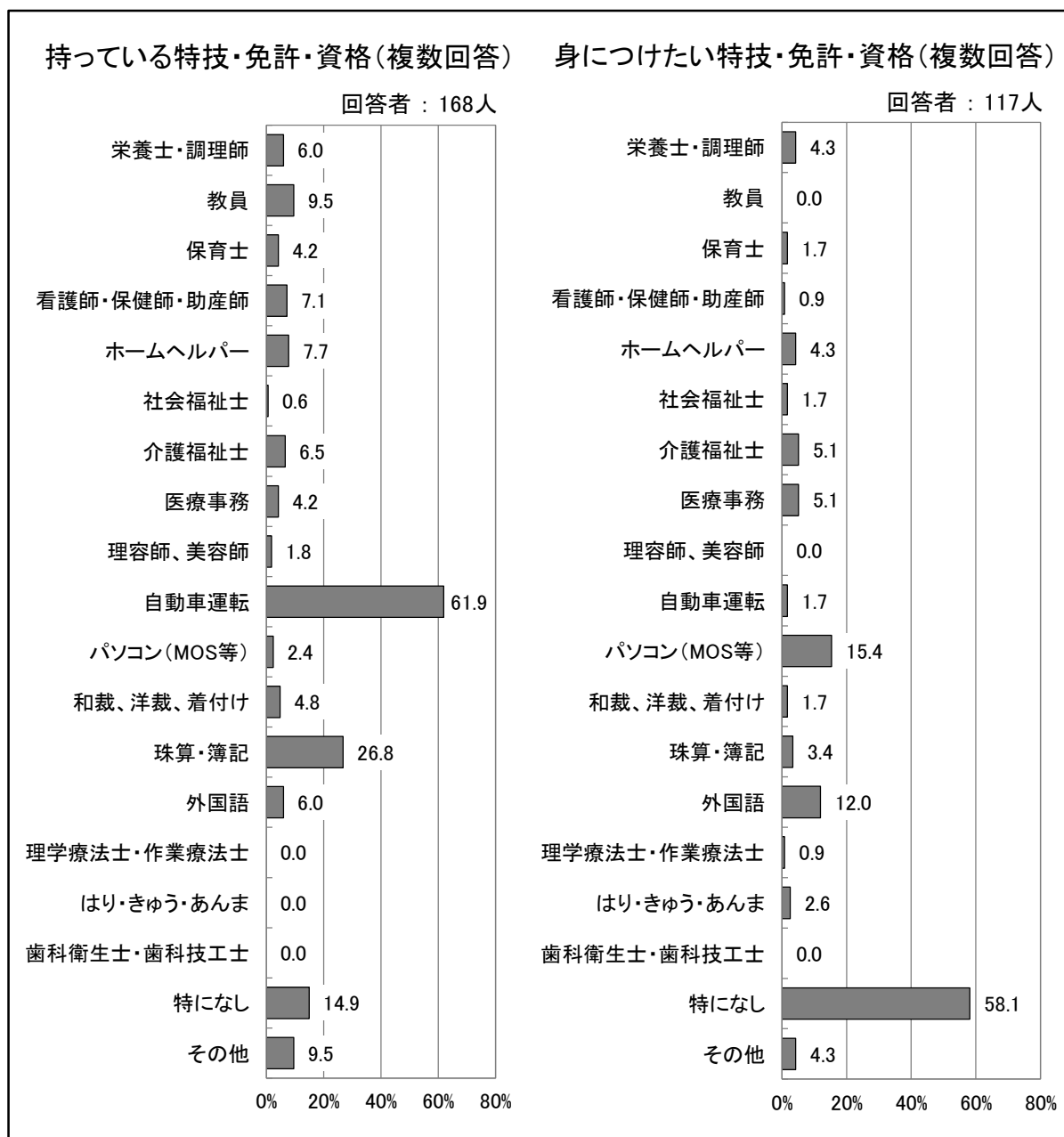


仕事をする希望がある人は約3割

現在、仕事についていない人で、今後の就業希望の有無をみると、「仕事をする希望がある」人は29.2%、「仕事をする希望がない」人は70.8%となっている。

また、仕事をする希望がある人で、希望する仕事の種類をみると、「雇用形態重視」が60.0%と最も多く、次いで「職種重視」(40.0%)となっている。

(10) 特技・免許・資格の取得状況及び今後の取得希望



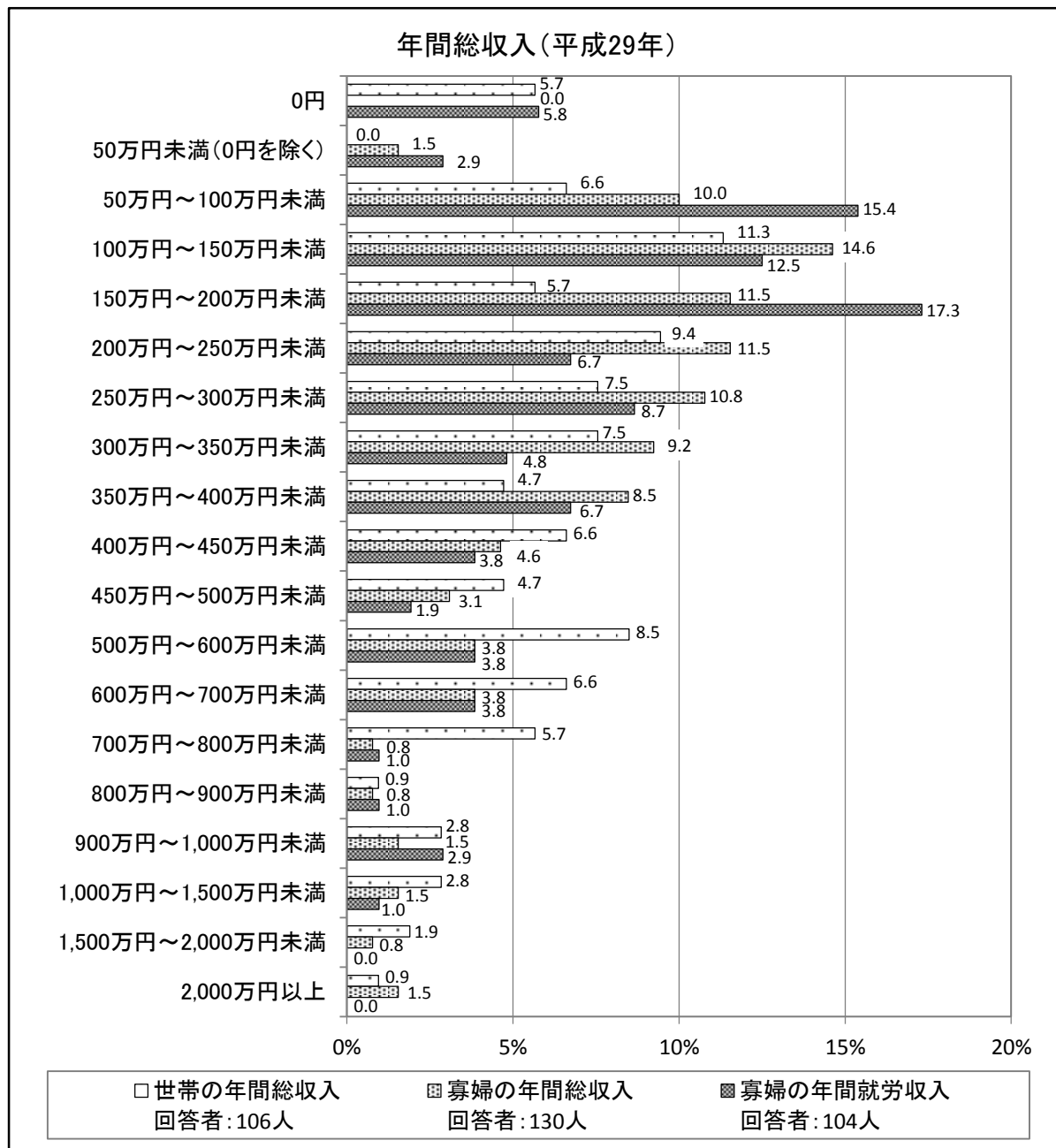
**自動車運転免許は約6割が持っている
今後取得したい資格は、パソコンが約2割、外国語が約1割**

現在、持っている特技・免許・資格については、「自動車運転」が 61.9%と最も多く、次いで「珠算・簿記」(26.8%)、「教員」(9.5%) の順となっている。

また、今後、身につけたい特技・免許・資格については、「パソコン (MOS等)」が 15.4%と最も多く、次いで「外国語」(12.0%)、「介護福祉士」(5.1%)、「医療事務」(5.1%) の順となっている。一方、「特になし」は約6割 (58.1%) を占めている。

5 家計

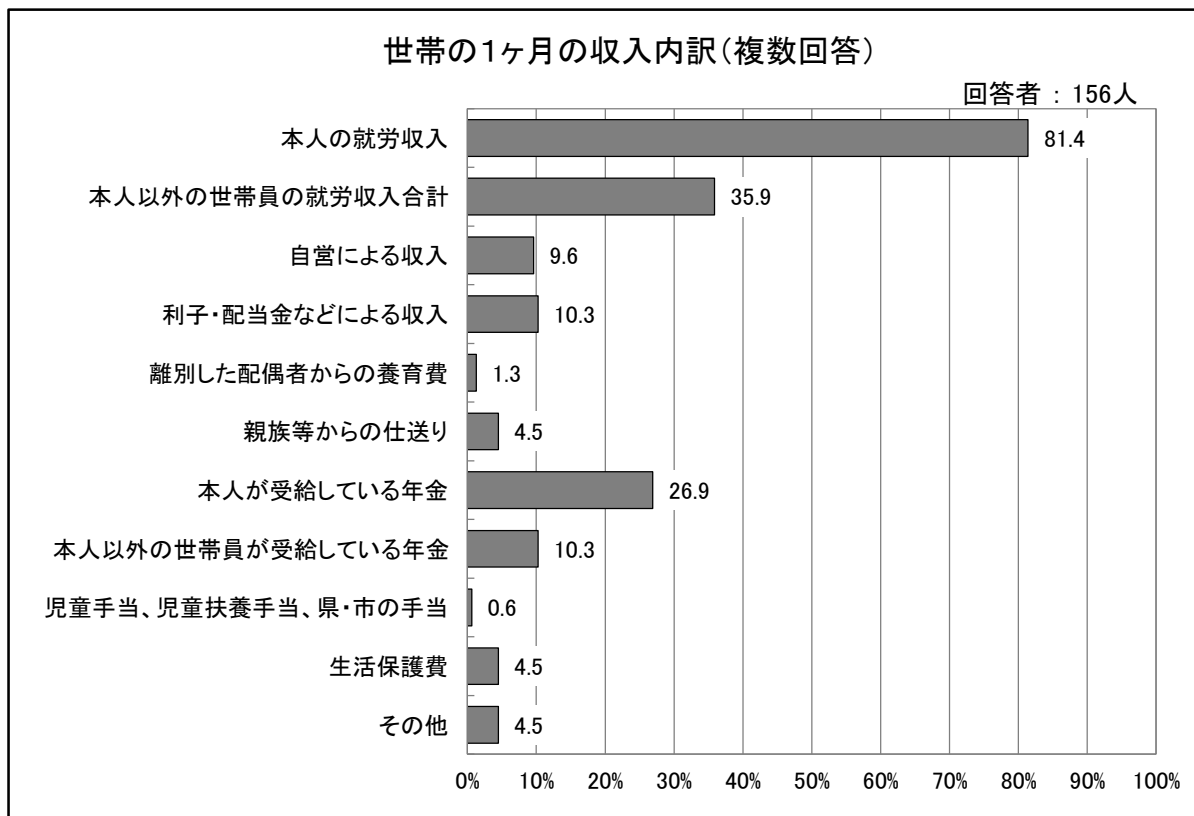
(1) 年間総収入



**世帯の年間総収入が200万円未満は約3割、300万円未満では約5割
寡婦の年間総収入は200万円未満が約4割、年間就労収入では200万円未満が約5割**

寡婦世帯の年間総収入(平成29年1月1日から平成29年12月31日)は、「100万円～150万円未満」が11.3%と最も多く、次いで「200万円～250万円未満」(9.4%)、「500万円～600万円未満」(8.5%)の順となっている。

(2) 世帯の1ヶ月の収入内訳(種類別該当項目)

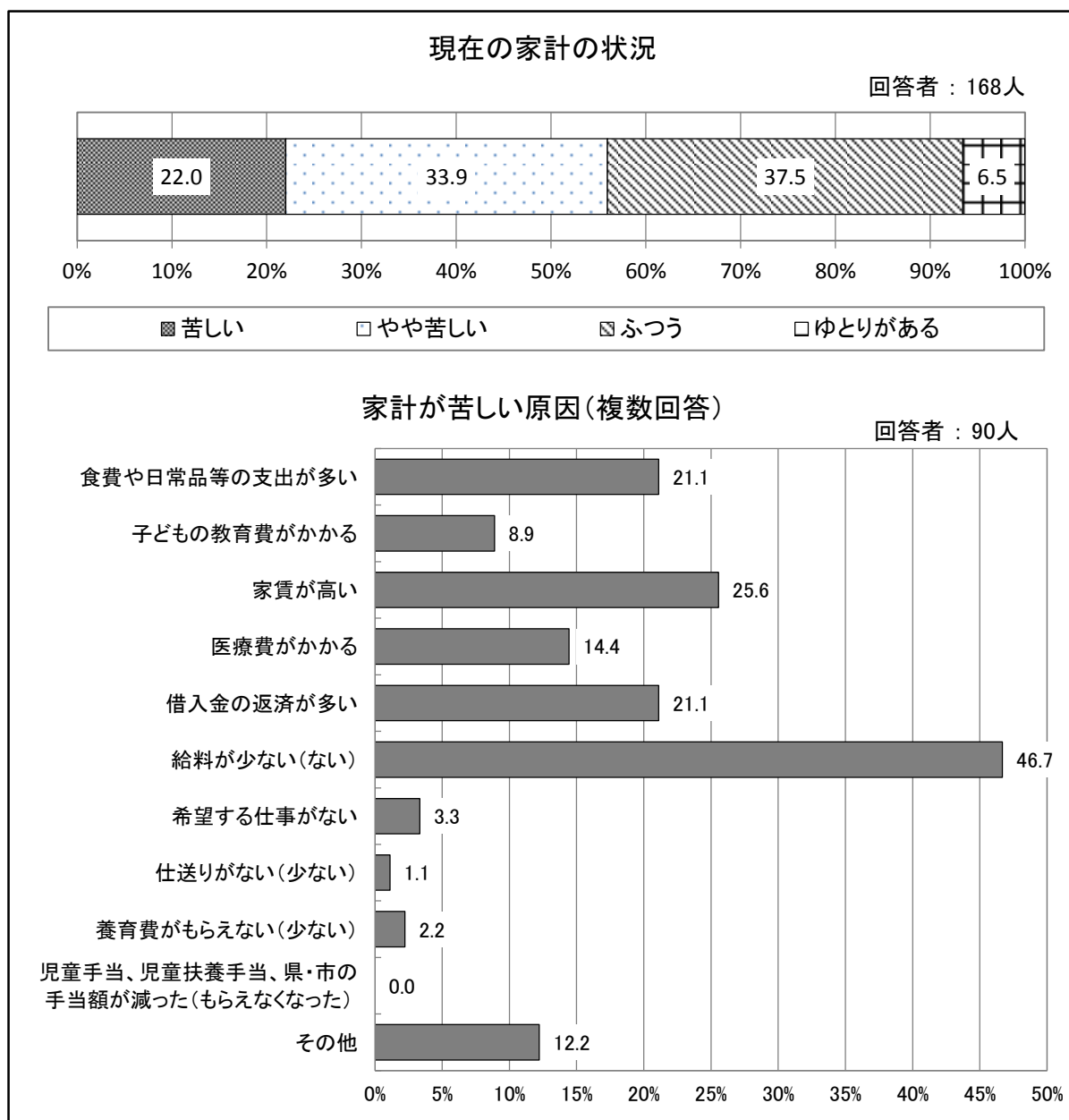


※上記表は、収入金額の多寡に関わりなく、収入があると回答された項目の割合を示している(例:「本人の就労収入」であれば、回答者 156 人×81.4%≒127 人(世帯)に就労収入があることが分かる)

本人の就労収入が約8割、本人以外の世帯員の就労収入合計が約4割

世帯の1ヶ月の税込み収入を収入の種類別にみると、「本人の就労収入」が81.4%と最も多く、次いで「本人以外の世帯員の就労収入合計」(35.9%)、「本人が受給している年金」(26.9%)の順となっている。

(3) 現在の家計の状況



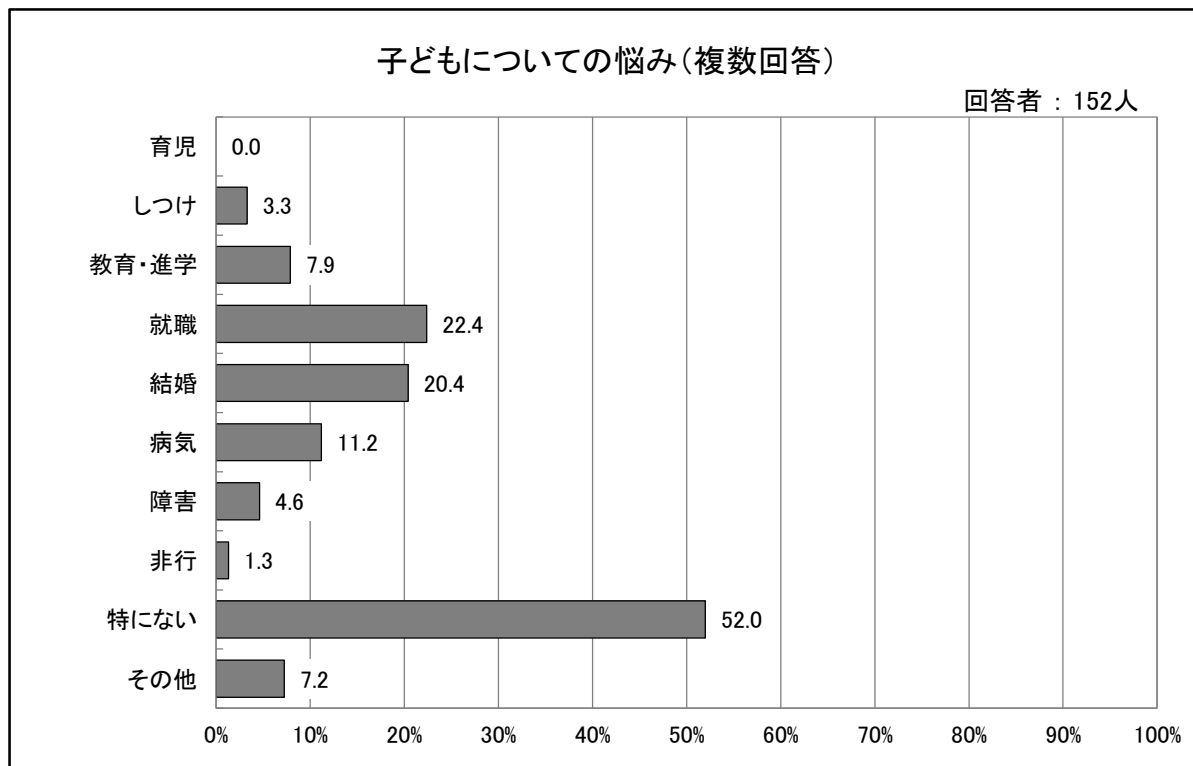
家計が苦しいと感じている人が約6割、苦しい原因は給料が少ない(ない)が約5割

現在の家計の状況については、「ふつう」が37.5%と最も多く、「やや苦しい」(33.9%)と「苦しい」(22.0%)を合わせた“家計が苦しいと感じている人”は約6割(56.0%)を占めている。

また、苦しい原因については、「給料が少ない(ない)」が46.7%と最も多く、次いで「家賃が高い」(25.6%)、「食費や日用品等の支出が多い」(21.1%)、「借入金の返済が多い」(21.1%)の順となっている。

6 子どもの教育等について

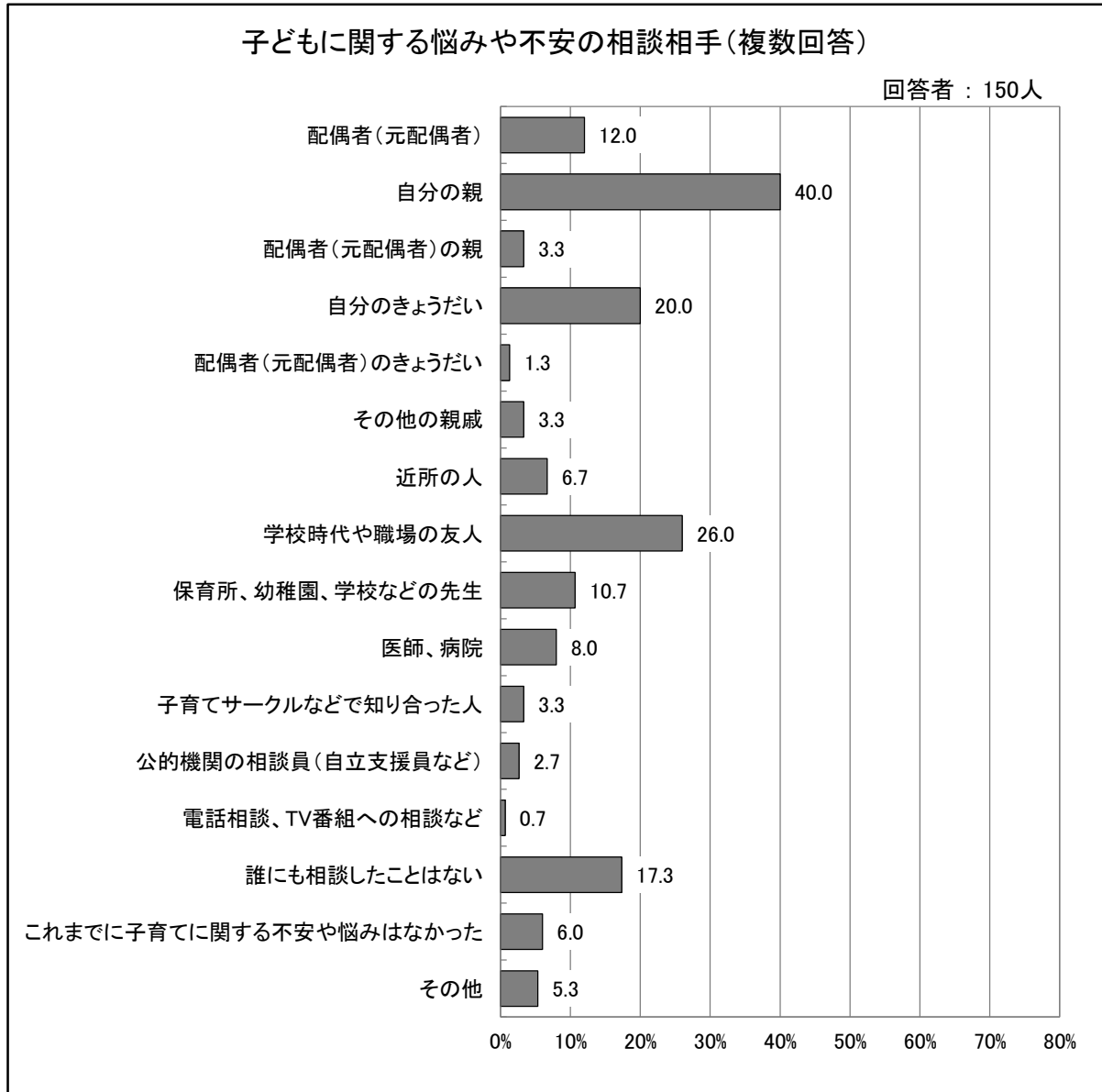
(1) 子どもについての悩み



子どもについて悩みがある人は約5割、悩みの内容は就職が約2割、結婚が約2割

子どもについて悩みがある人は、全体の約5割（48.0%）を占めており、悩みの内容は「就職」が22.4%と最も多く、次いで「結婚」（20.4%）、「病気」（11.2%）、「教育・進学」（7.9%）の順となっている。

(2) 子どもに関する悩みや不安の相談相手

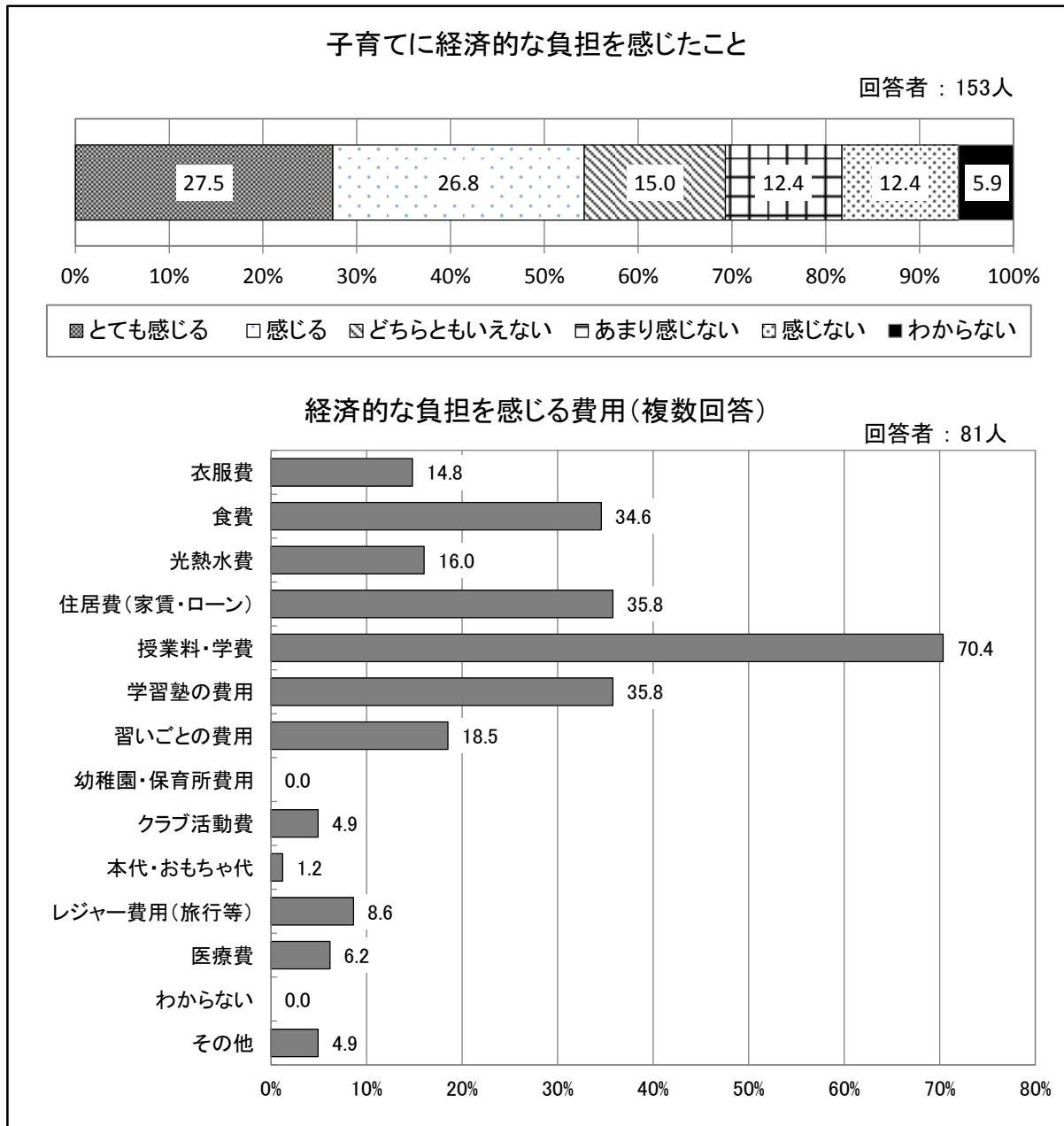


子どもに関する悩みや不安の相談相手は、自分の親が4割

子どもに関する悩みや不安の相談相手は、「自分の親」が 40.0%と最も多く、次いで「学校時代や職場の友人」(26.0%)、「自分のきょうだい」(20.0%)、「配偶者(元配偶者)」(12.0%)の順となっている。

また、「誰にも相談したことはない」が 17.3%となっている。

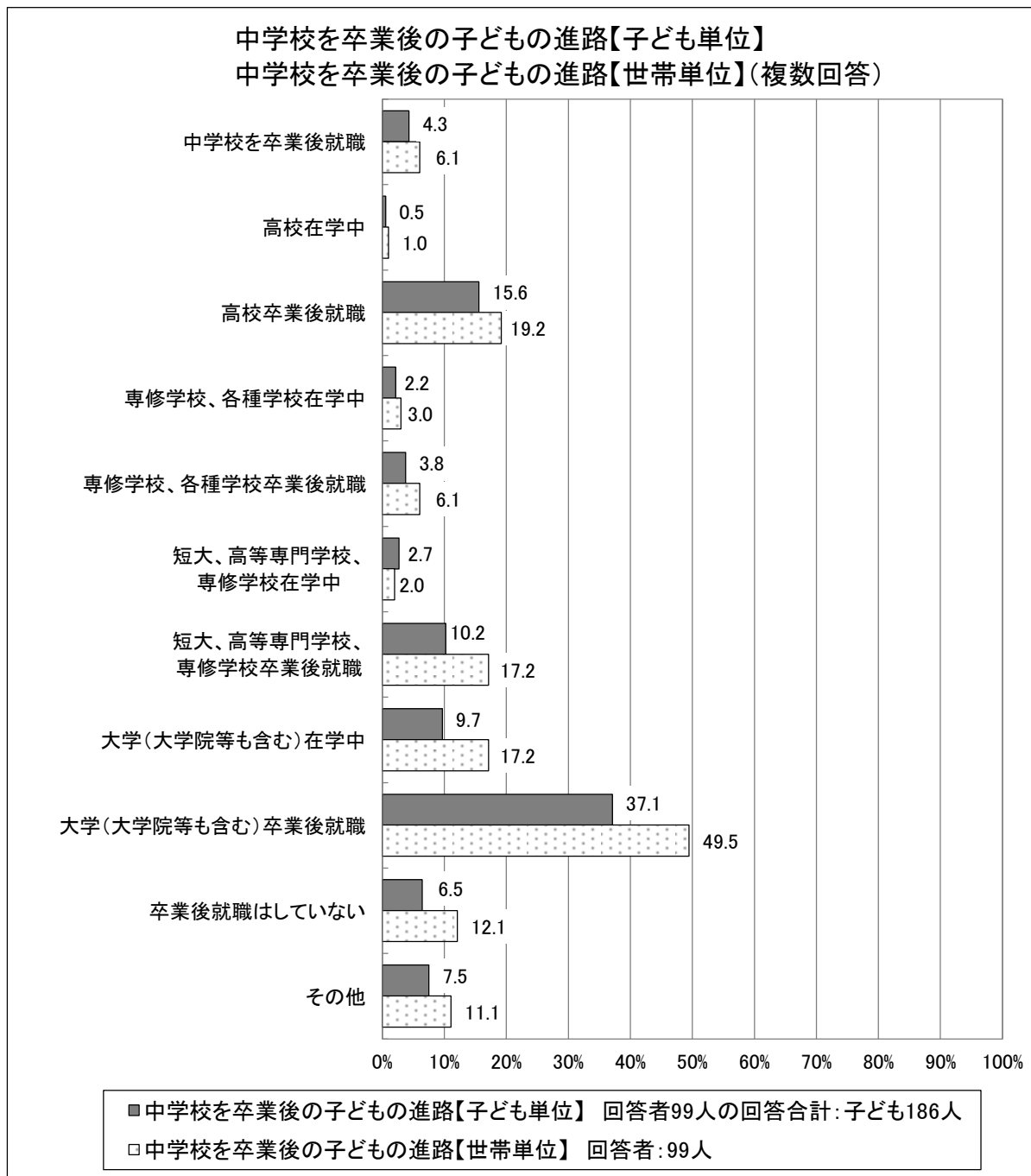
(3) 経済的負担



**子育てに経済的な負担を感じている人は約5割
経済的な負担を感じる費用について、
授業料・学費に負担を感じている人は約7割**

子育てに経済的な負担を感じている人は、全体の約5割(54.2%)を占めており、負担を感じている費用は、「授業料・学費」が70.4%と最も多く、次いで「住居費(家賃・ローン)」(35.8%)、「学習塾の費用」(35.8%)、「食費」(34.6%)の順となっている。

(4) 中学校を卒業後の子どもの進路



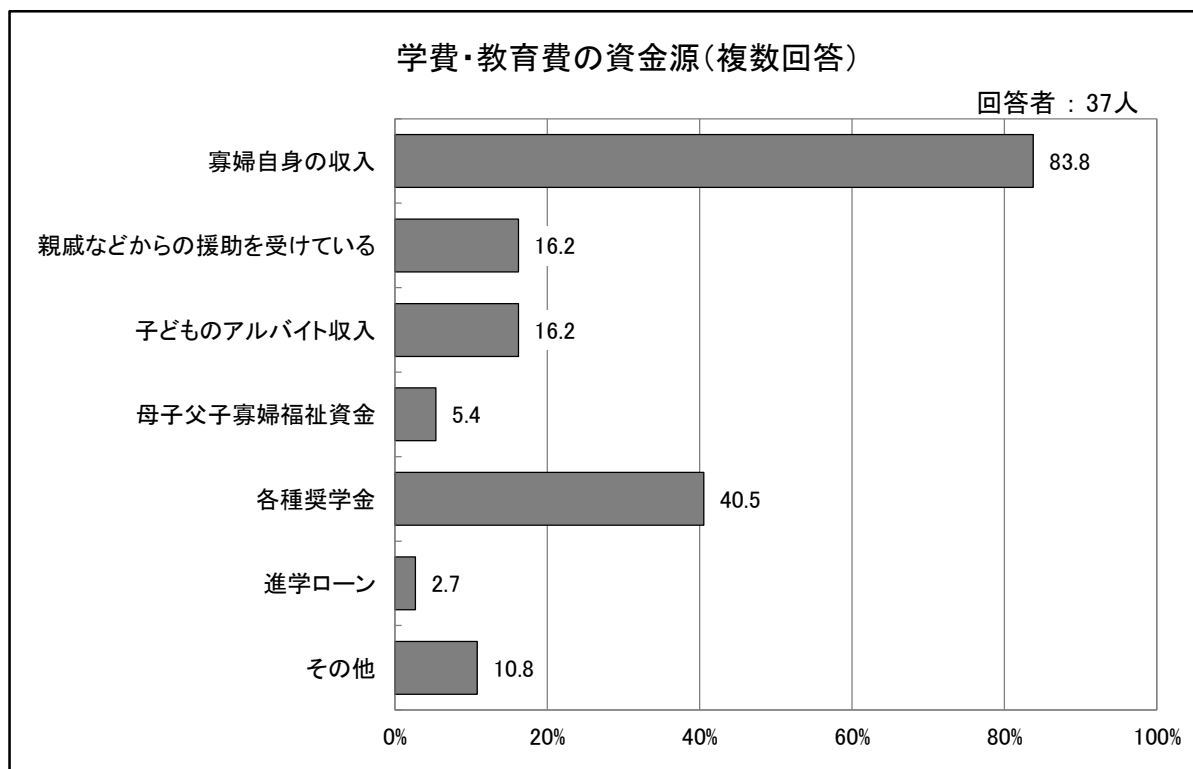
※上記表【子ども単位】は、回答者からの回答された子どもの人数の合計に対する該当項目の子どもの人数の割合を示している
 (例:「中学校を卒業後就職」であれば、回答者の子どもの人数 186人×4.3%≒8人の子どもの割合が分かる)
 ※上記表【世帯単位】は、子どもの人数に関わりなく、該当があると回答された項目の割合を示している
 (例:「中学校を卒業後就職」であれば、回答者99人×6.1%≒6人(世帯)に該当者がいることが分かる)

中学校を卒業した子どもの進路は、大学卒業後就職が約4割

中学校を卒業した子どもの進路についてみると、「大学(大学院等も含む)卒業後就職」が37.1%と最も多く、次いで「高校卒業後就職」(15.6%)、「短大、高等専門学校、専修学校卒業後就職」(10.2%)の順となっている。

また、中学校を卒業した子どもをもつ寡婦世帯のうち、「大学(大学院等も含む)在学中」の子どもがいる世帯は約2割(17.2%)となっている。

(5) 学費・教育費の資金源

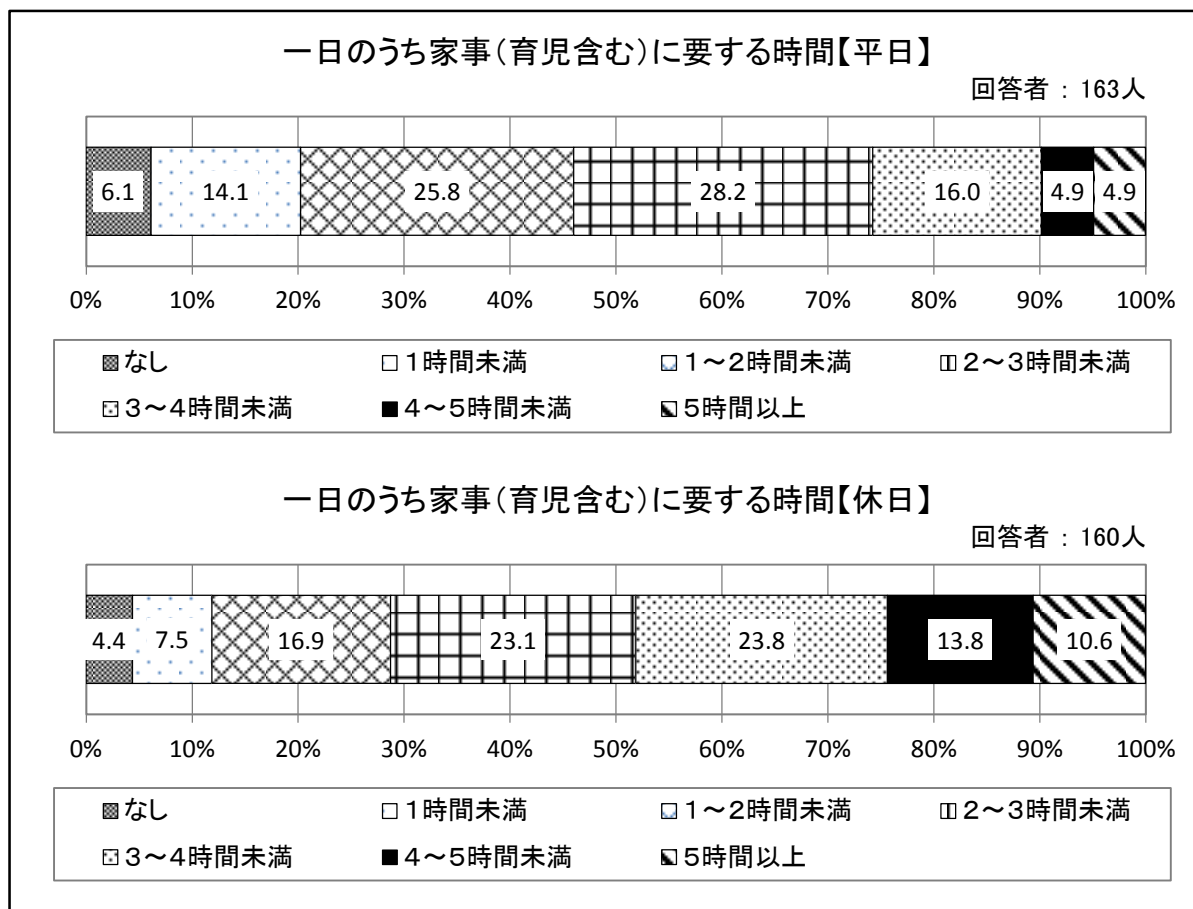
**学費の資金源は寡婦自身の収入が約8割、各種奨学金が約4割**

学費の資金源については「寡婦自身の収入」が 83.8%と最も多く、次いで「各種奨学金」(40.5%)、「親戚などからの援助を受けている」(16.2%)、「子どものアルバイト収入」(16.2%)の順となっている。

7 生活等について

(1) ワーク・ライフ・バランスについて

① 一日のうち家事(育児含む)に要する時間

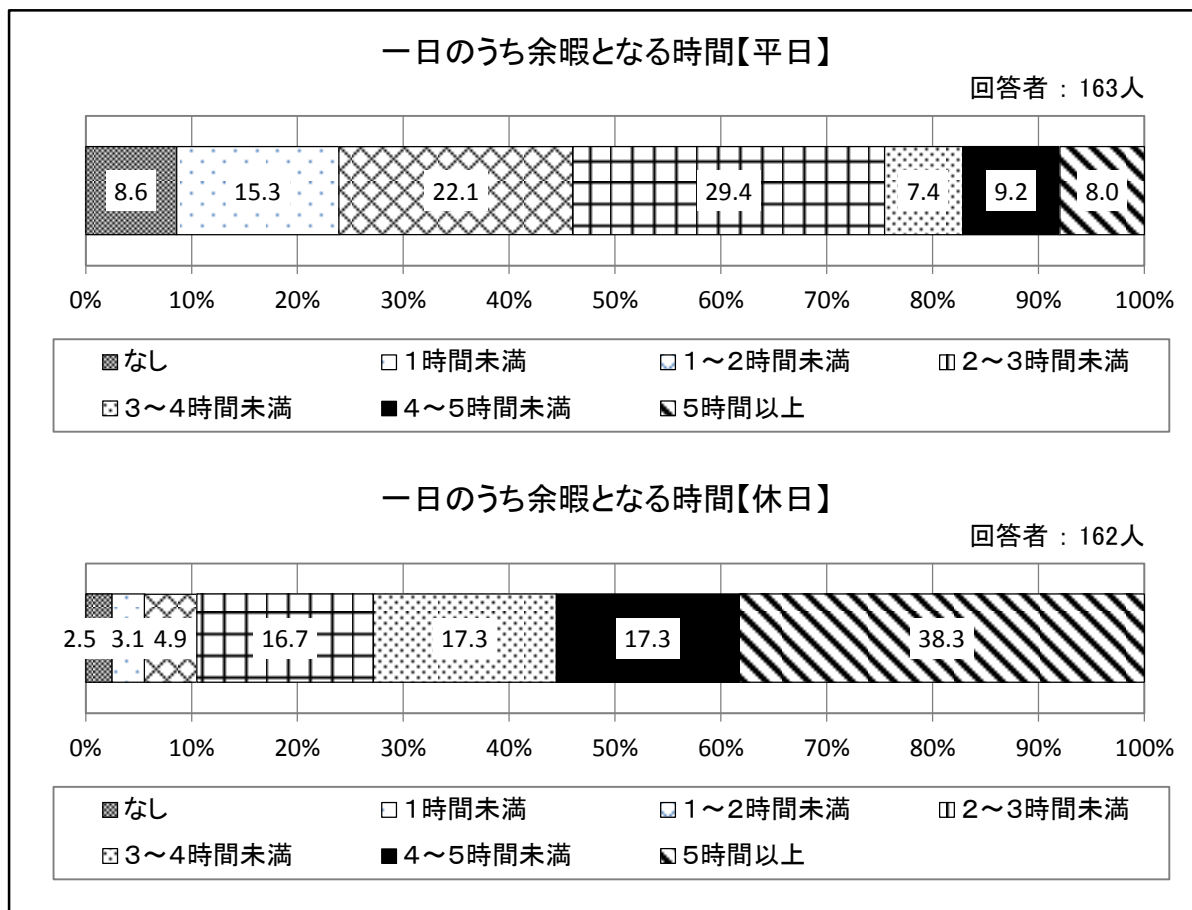


家事に要する時間は、平日は3時間未満が約7割、休日は3時間以上が約5割

一日のうち家事をする時間については、平日では「2～3時間未満」が28.2%と最も多く、次いで「1～2時間未満」(25.8%)、「3～4時間未満」(16.0%)、「1時間未満」(14.1%)、「なし」(6.1%)の順となっている。

また、休日では「3～4時間未満」が23.8%と最も多く、次いで「2～3時間未満」(23.1%)、「1～2時間」(16.9%)の順となっている。

②一日のうち余暇となる時間

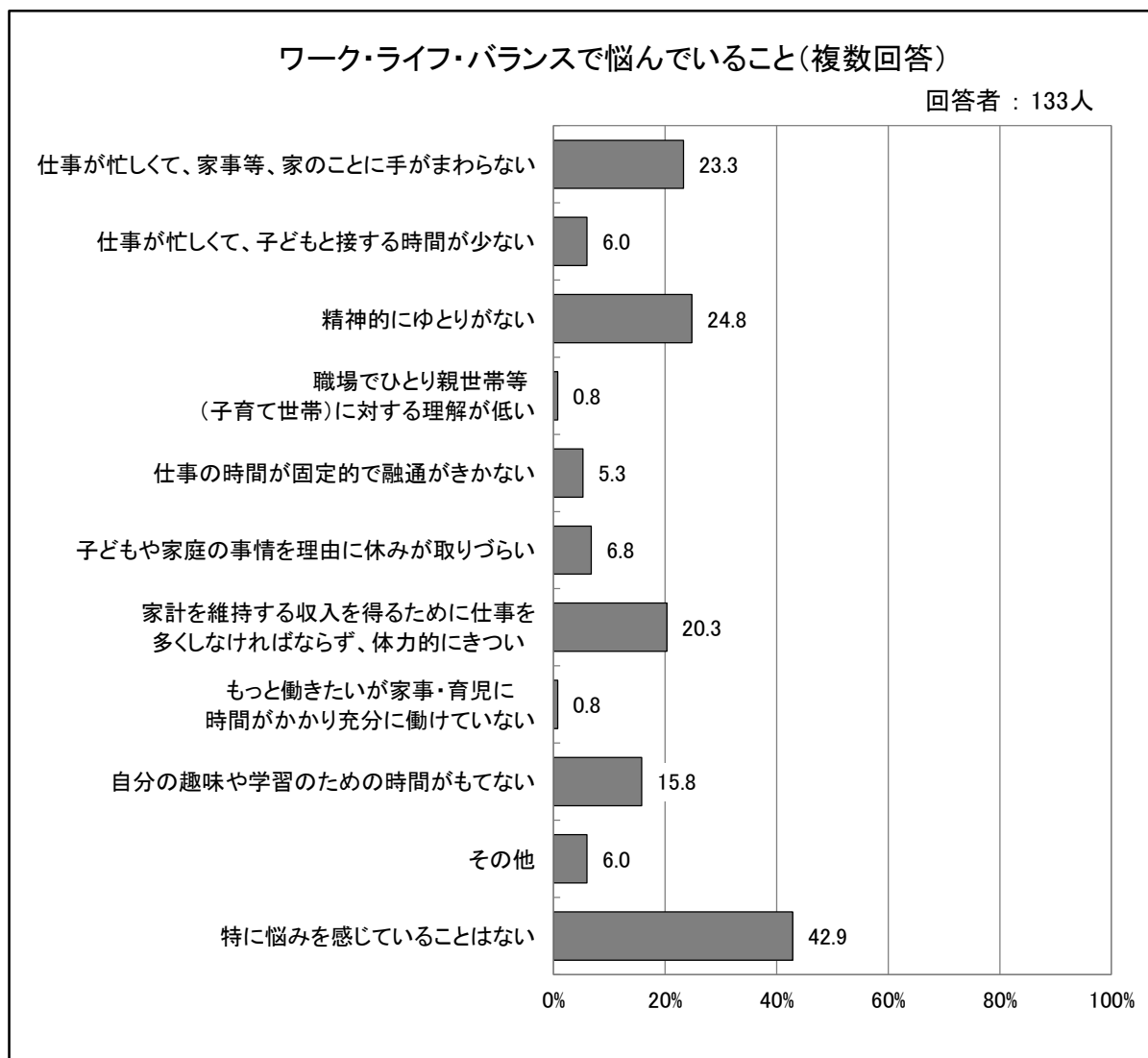


余暇となる時間は、平日は2時間未満が約5割、休日は5時間以上が約4割

一日のうち余暇となる時間については、平日では「2～3時間未満」が29.4%と最も多く、次いで「1～2時間未満」(22.1%)、「1時間未満」(15.3%)の順となっている。

また、休日では「5時間以上」が38.3%と最も多く、次いで「3～4時間未満」と「4～5時間未満」がいずれも17.3%となっている。

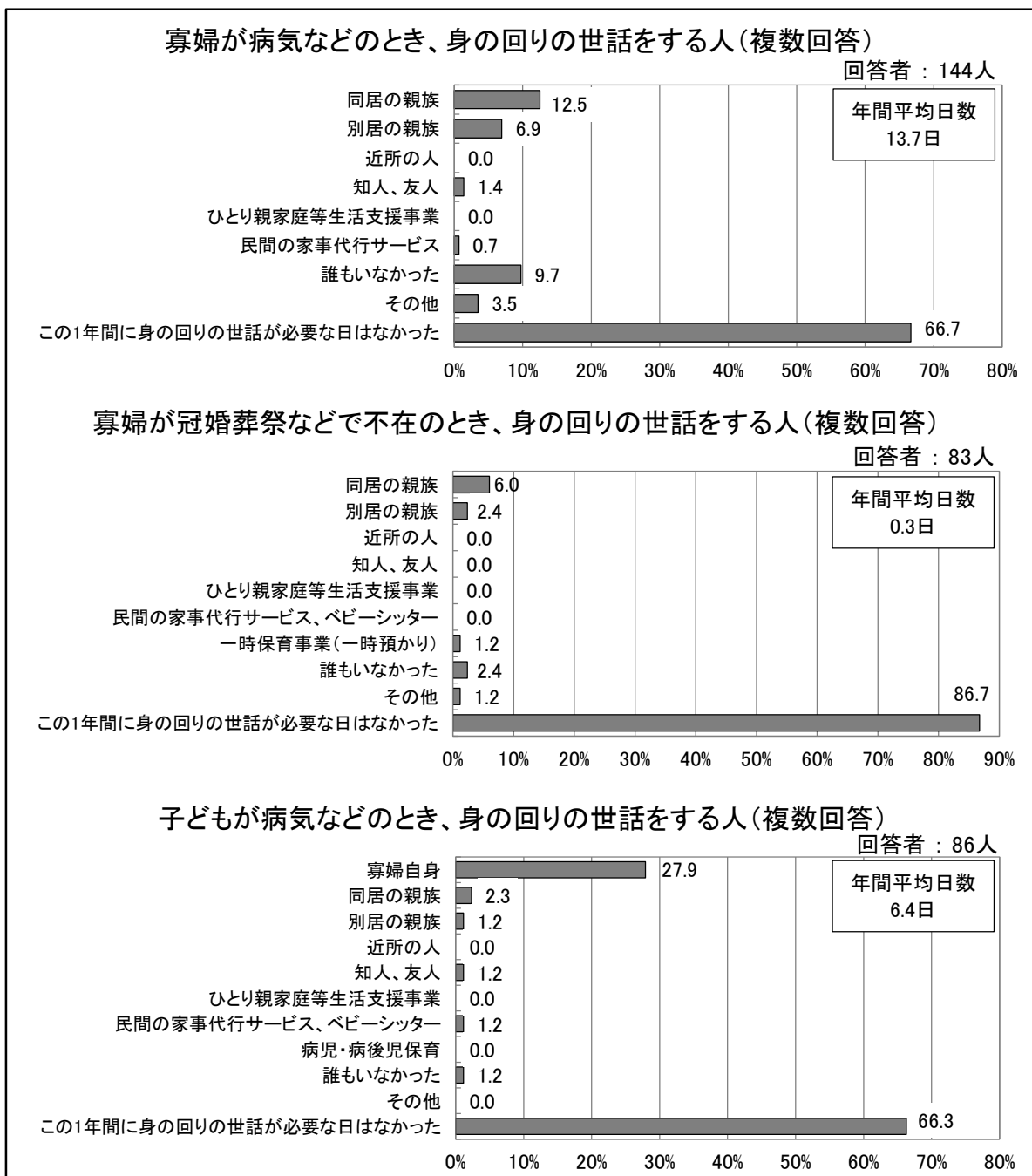
③ワーク・ライフ・バランスで悩んでいること



ワーク・ライフ・バランスで悩んでいることは、精神的にゆとりがないが約2割

ワーク・ライフ・バランスで悩んでいることがある人は、全体の約6割(57.1%)を占めており、悩んでいることは「精神的にゆとりがない」が24.8%と最も多く、次いで「仕事が忙しくて、家事等、家のことに手がまわらない」(23.3%)、「家計を維持する収入を得るために仕事を多くしなければならず、体力的にきつい」(20.3%)、「自分の趣味や学習のための時間がもてない」(15.8%)の順となっている。

(2) 病気などのときの身の回りのこと



※上記表は、年間日数に関わりなく、該当があると回答された項目の割合を示している
(例：寡婦が病気などのとき、身の回りの世話をする人「同居の親族」であれば、回答者 144人×12.5%=18人(世帯)に該当があることが分かる)

寡婦が病気などのときに身の回りの世話をしてくれる人は、同居の親族が約1割

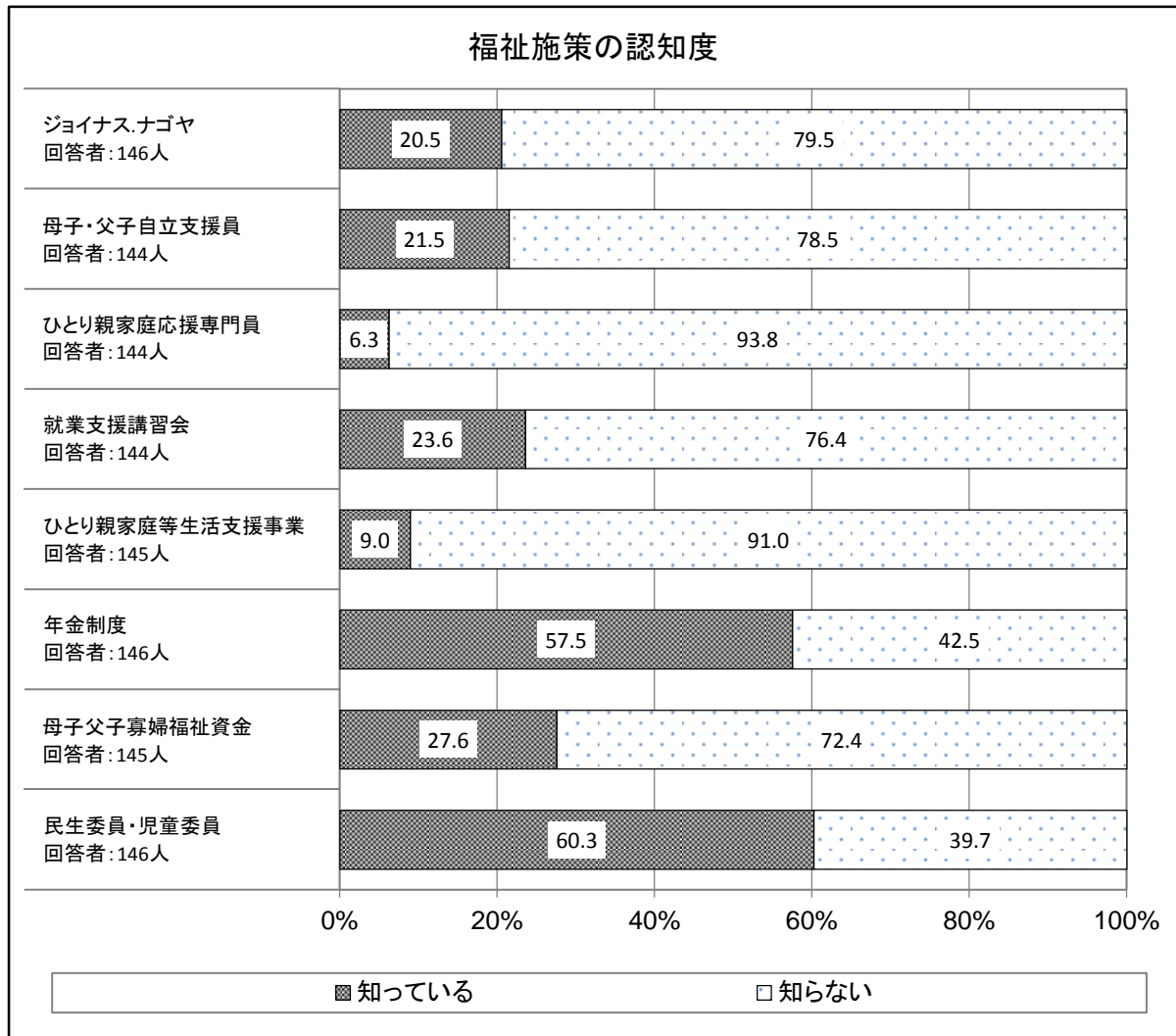
この1年間に寡婦が病気などで一時的に日常生活の援助が必要になったとき、身の回りの世話をしてくれる人は、「同居の親族」が12.5%と最も多く、次いで「誰もいなかった」(9.7%)となっている。

子どもが病気などのとき、身の回りの世話をする人は、「寡婦自身」が27.9%と最も多くなっている。

8 福祉施策利用・受給状況

(1) 福祉施策の利用・受給状況と今後の利用希望

①福祉施策の認知度

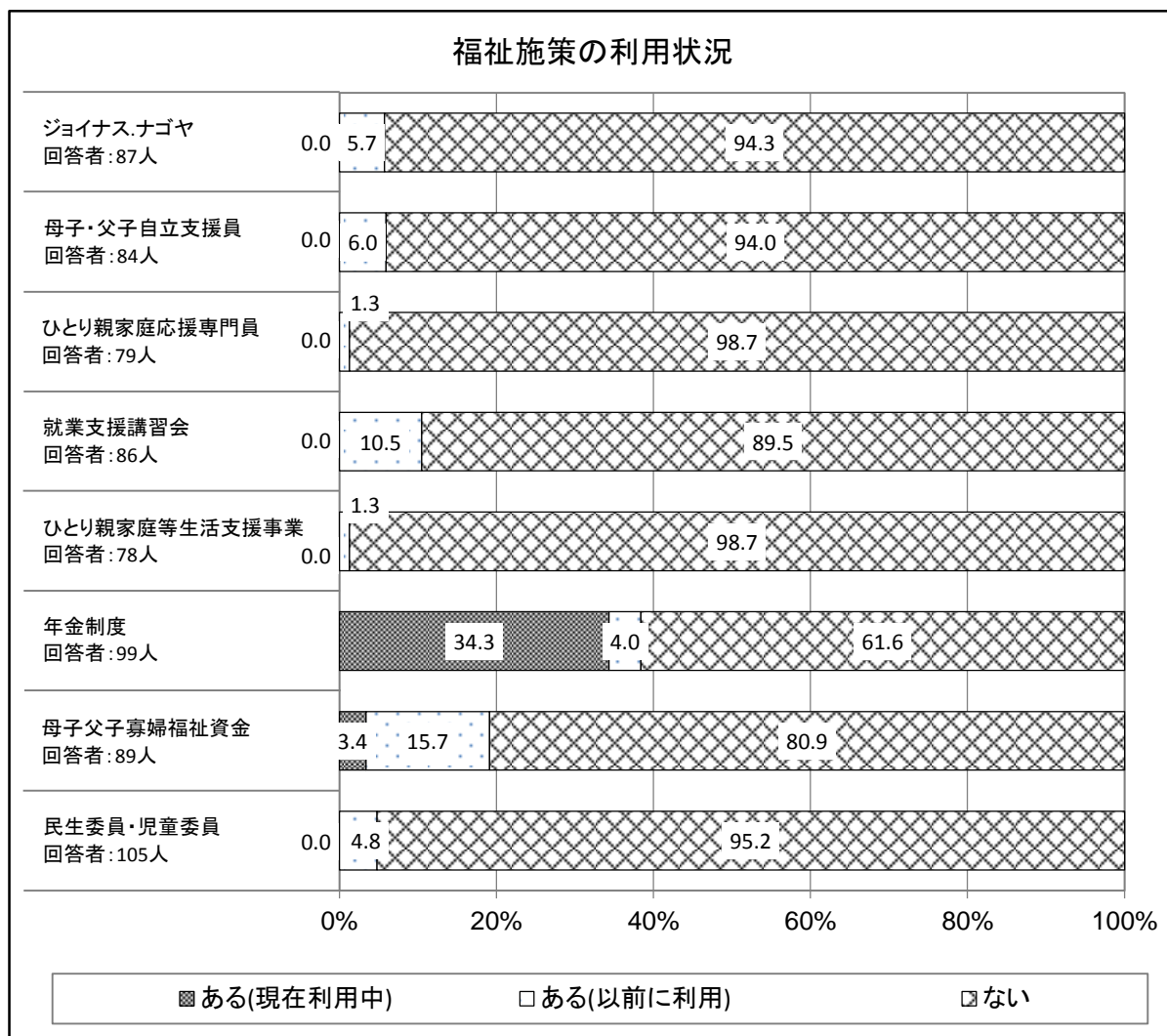


認知度が高い施策は、民生委員・児童委員、年金制度

認知度が低い制度は、ひとり親家庭応援専門員、ひとり親家庭等生活支援事業

福祉施策の認知度は、「民生委員・児童委員」が60.3%と最も高く、次いで「年金制度」(57.5%)となっている。一方、「ひとり親家庭応援専門員」(6.3%)、「ひとり親家庭等生活支援事業」(9.0%)で約1割となっている。

②福祉施策の利用状況

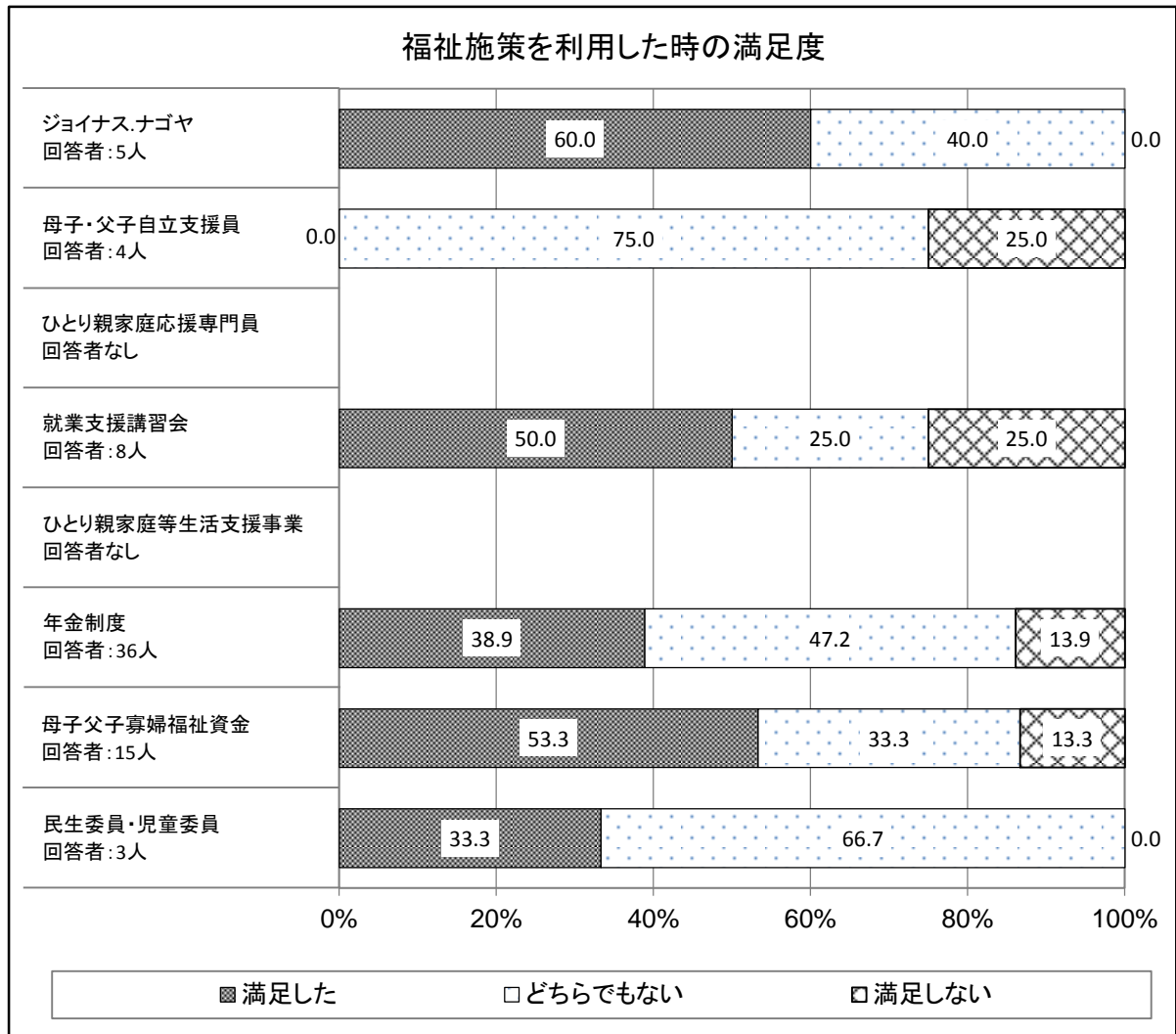


福祉施策を利用したことがある人は、年金制度が約4割

福祉施策を利用したことがある人は、「年金制度」の38.4%が最も多く、次いで「母子父子寡婦福祉資金」(19.1%)となっている。

また、全体をみてみると8の福祉施策のうち、5の福祉施策で利用したことがある人が1割未満となっている。

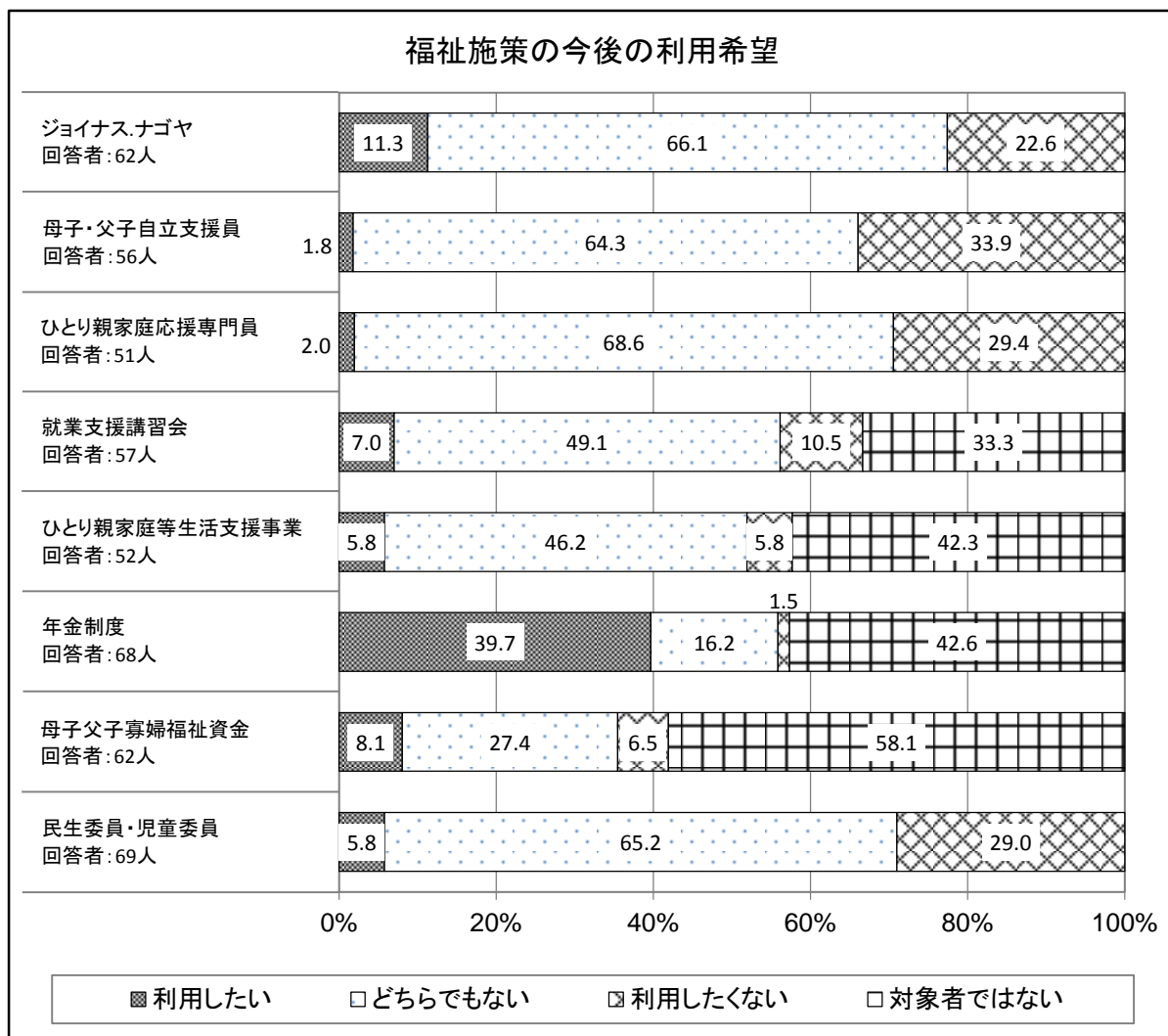
③福祉施策を利用した時の満足度



福祉施策を利用した時、満足しなかった人は、すべての福祉施策で3割以下

福祉施策を利用したことがある人で福祉施策を利用した時に満足しなかった人は、「母子・父子自立支援員」と「就業支援講習会」がいずれも 25.0%と最も多く、次いで「年金制度」(13.9%)、「母子父子寡婦福祉資金」(13.3%)の順となっている。

④福祉施策の今後の利用希望

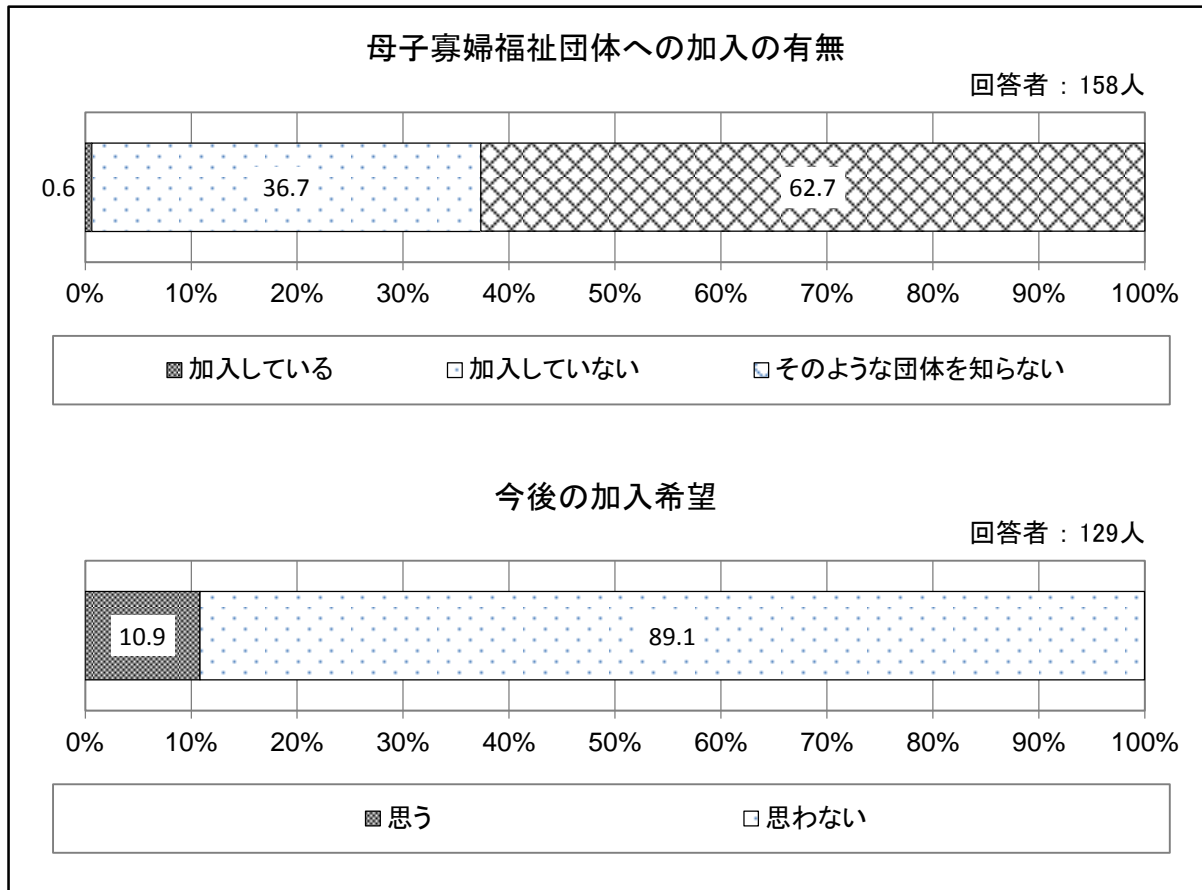


※「対象者ではない」は、「ジョイナス.ナゴヤ」「母子・父子自立支援員」「ひとり親家庭応援専門員」「民生委員・児童委員」にはない選択項目

福祉施策の今後の利用を希望する人は、年金制度で約4割

福祉施策の今後の利用を希望する人は、「年金制度」が 39.7%と最も多く、次いで「ジョイナス.ナゴヤ」(11.3%)、「母子父子寡婦福祉資金」(8.1%)の順となっている。

(2) 母子寡婦福祉団体への加入



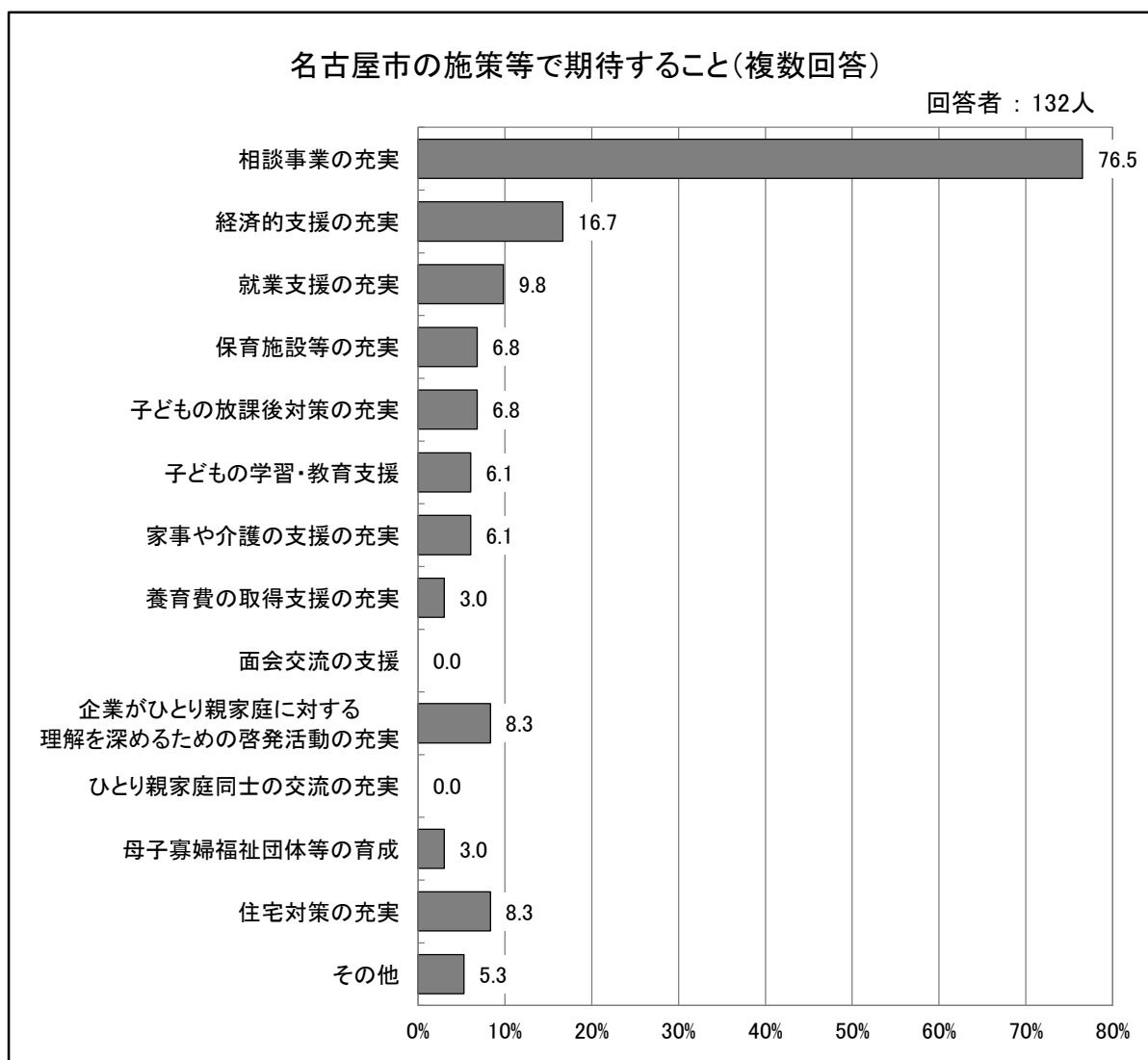
**母子寡婦福祉団体へ加入していない人は約4割、団体を知らない人は約6割
今後、団体への加入を希望している人は約1割**

母子寡婦福祉団体への加入については、「加入している」人は 0.6%となっており、「加入していない」人は 36.7%、「そのような団体を知らない」人は 62.7%となっている。

母子寡婦福祉団体に「加入していない」または「そのような団体を知らない」人のうち、今後加入をしたいと「思う」人は 10.9%となっている。

(3) 名古屋市の施策への期待

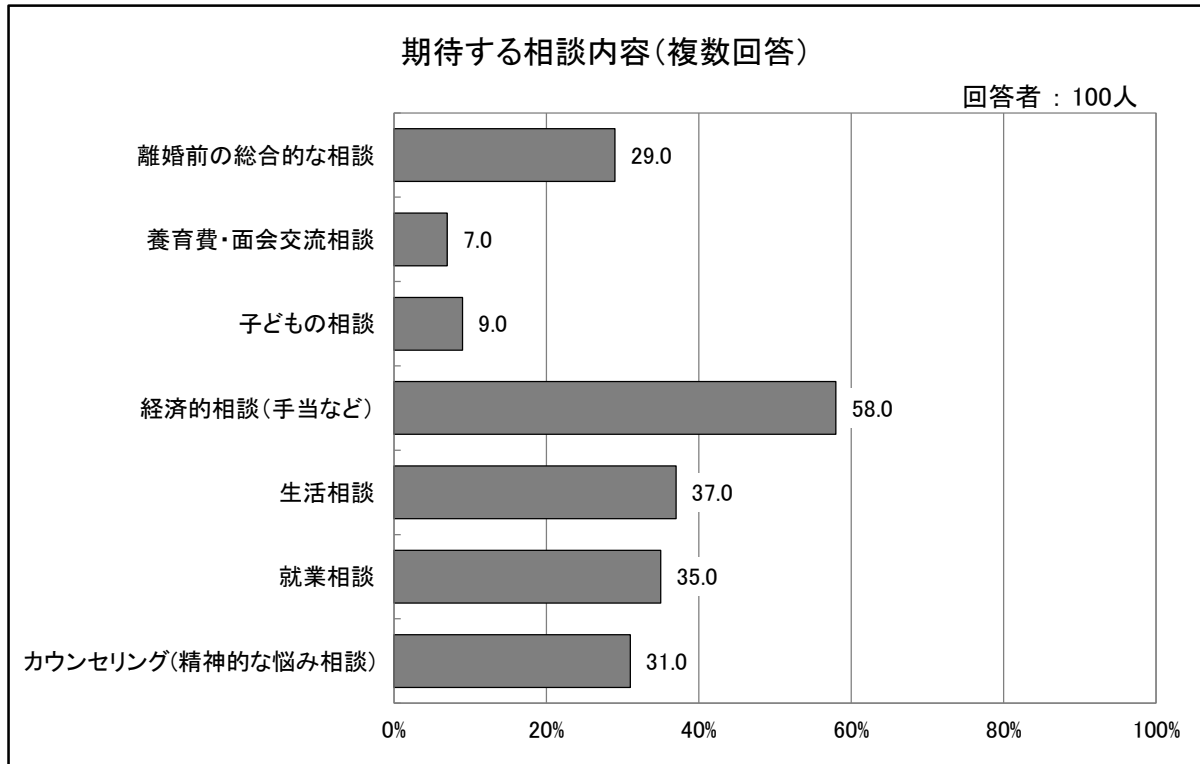
①名古屋市の施策等で期待すること



名古屋市の施策等で期待することは、相談事業が約8割、経済的支援が約2割

名古屋市の施策等で期待することは、「相談事業の充実」が76.5%と最も多く、次いで「経済的支援の充実」(16.7%)、「就業支援の充実」(9.8%)、「企業がひとり親家庭に対する理解を深めるための啓発活動の充実」(8.3%)、「住宅対策の充実」(8.3%)の順となっている。

②相談事業の内容について期待すること



期待する相談内容は、経済的相談(手当など)が約6割

名古屋市の施策等で相談事業の充実を期待している人のうち、期待する相談内容については、「経済的相談(手当など)」が58.0%と最も多く、次いで「生活相談」(37.0%)、「就業相談」(35.0%)、「カウンセリング(精神的な悩み相談)」(31.0%)の順となっている。